



2026年12月期 第2四半期 決算説明資料

オプテックスグループ株式会社

証券コード6914

2026年8月12日

<免責事項>

本資料に記載しております、オプテックスグループ株式会社の業績、戦略、事業計画等の将来予測を示す記述については、発表時点で入手可能な情報による判断および仮定に基づいております。判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化により、実際の業績等が記述されている将来予測とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

本資料における FY2026 は、2026年1月1日から12月31日までの会計年度（2026年12月期）を指します。

【ご参考】当社の事業セグメント概要

IA（インダストリアルオートメーション）事業

自動化装置関連

自動車向けの二次電池製造装置を提供



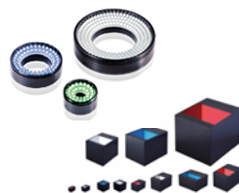
産業用PC関連

半導体製造装置向けの組込ボードや
空港向けの追尾用カメラを提供



検査用照明関連

工場の検査工程で検査の品質向上に
役立つ照明を提供



FA関連

工場の生産工程で自動化・省人化に
役立つセンサーを提供



SS（センシングソリューション）事業

防犯関連

住宅、事業所、大型重要施設向けの
防犯センサーを提供



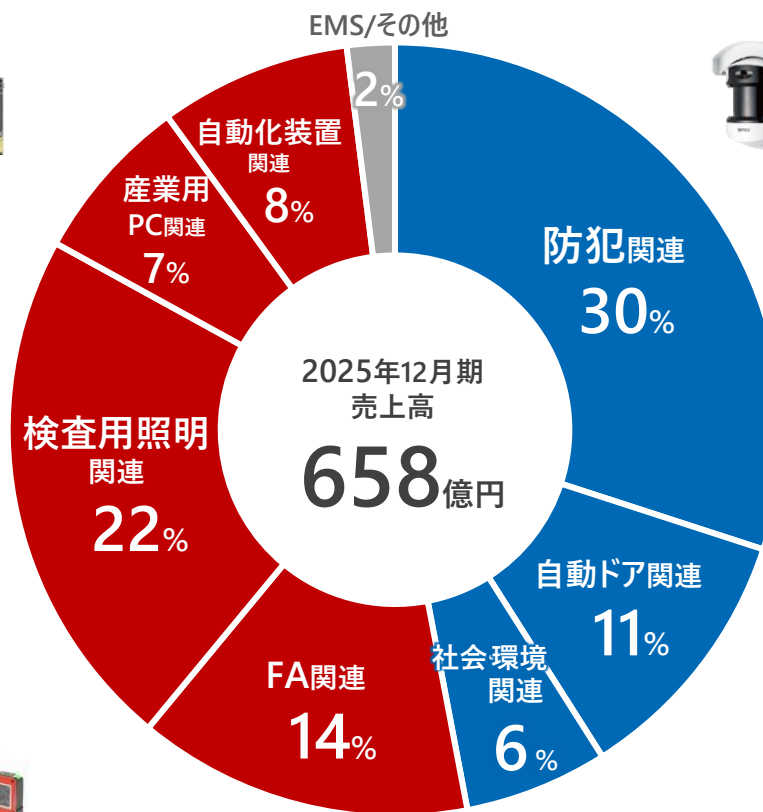
自動ドア関連

自動ドア用センサー、工場や倉庫の
シャッター用センサーを提供



社会・環境関連

駐車場向けの車両検知センサーや
上水・下水向けの水質計測センサーを提供



1. 2026年12月期 上期決算概要

2. 2026年12月期 業績予想（上方修正）

2026年12月期 上期決算のポイント

SS事業：Sensing Solution（センシングソリューション）事業

IA事業：Industrial Automation（インダストリアルオートメーション）事業

SS事業およびIA事業の業績好調を背景に、売上高・営業利益ともに過去最高を更新

売上高 前年同期比+20.8%

SS事業：防犯関連のデータセンサー向けを中心とする大型重要施設向け、社会・環境関連の駐車場向け販売が好調継続

IA事業：FA関連、検査用照明関連、産業用PC関連において、半導体、電気・電子部品向けの販売が好調に推移

営業利益 前年同期比+50.7%

- ・高収益製品（SS事業：防犯関連の大型重要施設向け等）の販売増加により、製品ミックス改善
- ・円安による為替影響も増益に寄与

2026年12月期 上期連結決算 総括

単位：百万円 （ ）：対売上高比	FY2025 上期実績	FY2026 上期実績	増減率
売上高	30,346	36,651	+20.8%
売上総利益	16,072 (53.0%)	19,793 (54.0%)	+23.1%
販売費及び一般管理費	12,424 (40.9%)	14,295 (39.0%)	+15.1%
営業利益	3,647 (12.0%)	5,497 (15.0%)	+50.7%
経常利益	3,192 (10.5%)	5,824 (15.9%)	+82.4%
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,998 (9.9%)	4,191 (11.4%)	+39.8%
1株当たり四半期純利益 (単位：円)	84.18	117.65	

為替レート	FY2025 上期実績	FY2026 上期実績
1USD	148.60円	158.18円
1EUR	162.15円	184.52円
1GBP	192.58円	212.77円

2026年12月期 上期連結決算 セグメント別 売上高・営業利益

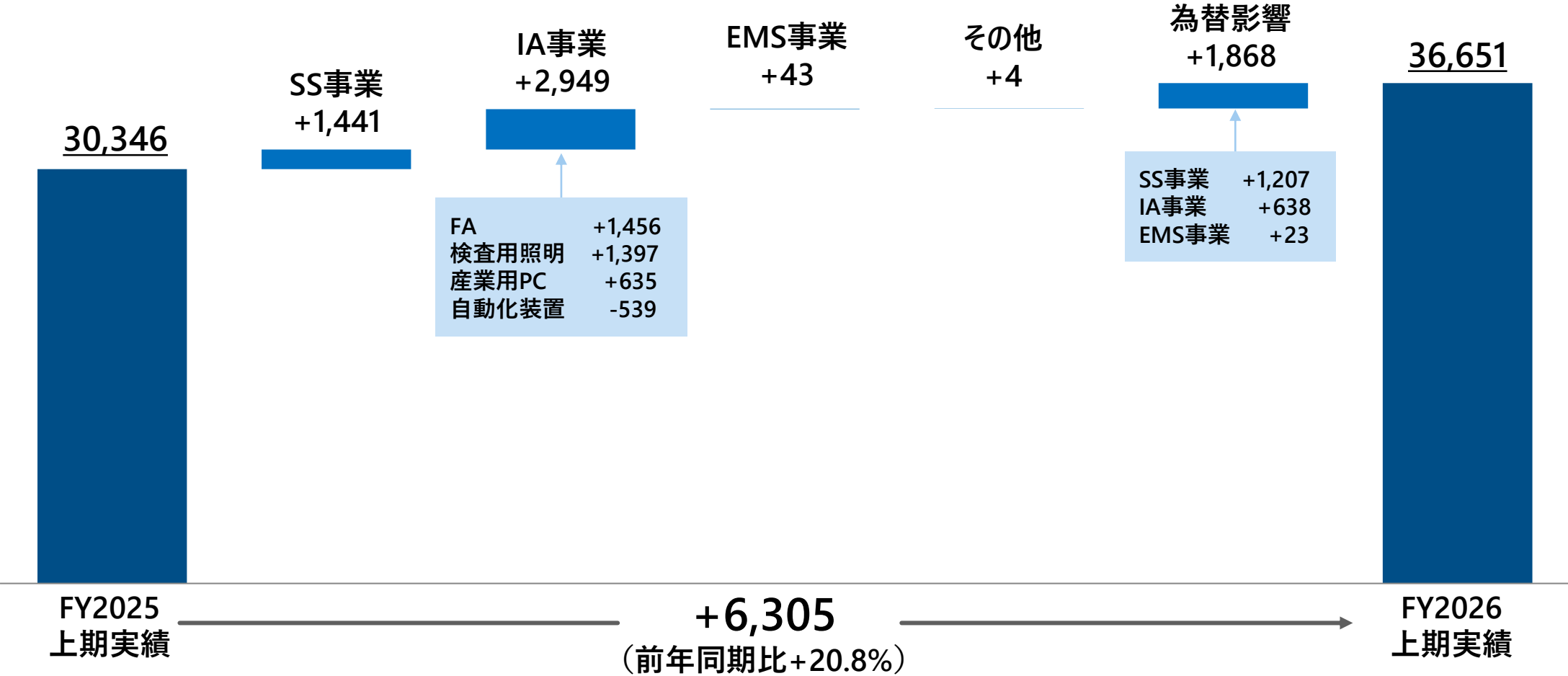
単位：百万円	売上高			営業利益 (営業利益率)		
	FY2025 上期実績	FY2026 上期実績	増減率	FY2025 上期実績	FY2026 上期実績	増減率
SS事業 (センシングソリューション)	14,856	17,503	+17.8%	2,647 (17.8%)	3,219 (18.4%)	+21.6%
IA事業 (インダストリアルオートメーション)	15,032	18,619	+23.9%	1,314 (8.7%)	2,606 (14.0%)	+98.3%
EMS事業	410	477	+16.3%	-190	11	+106.1%

※セグメント別の売上高は、セグメント間取引の売上高を消去した数値を表示しています。

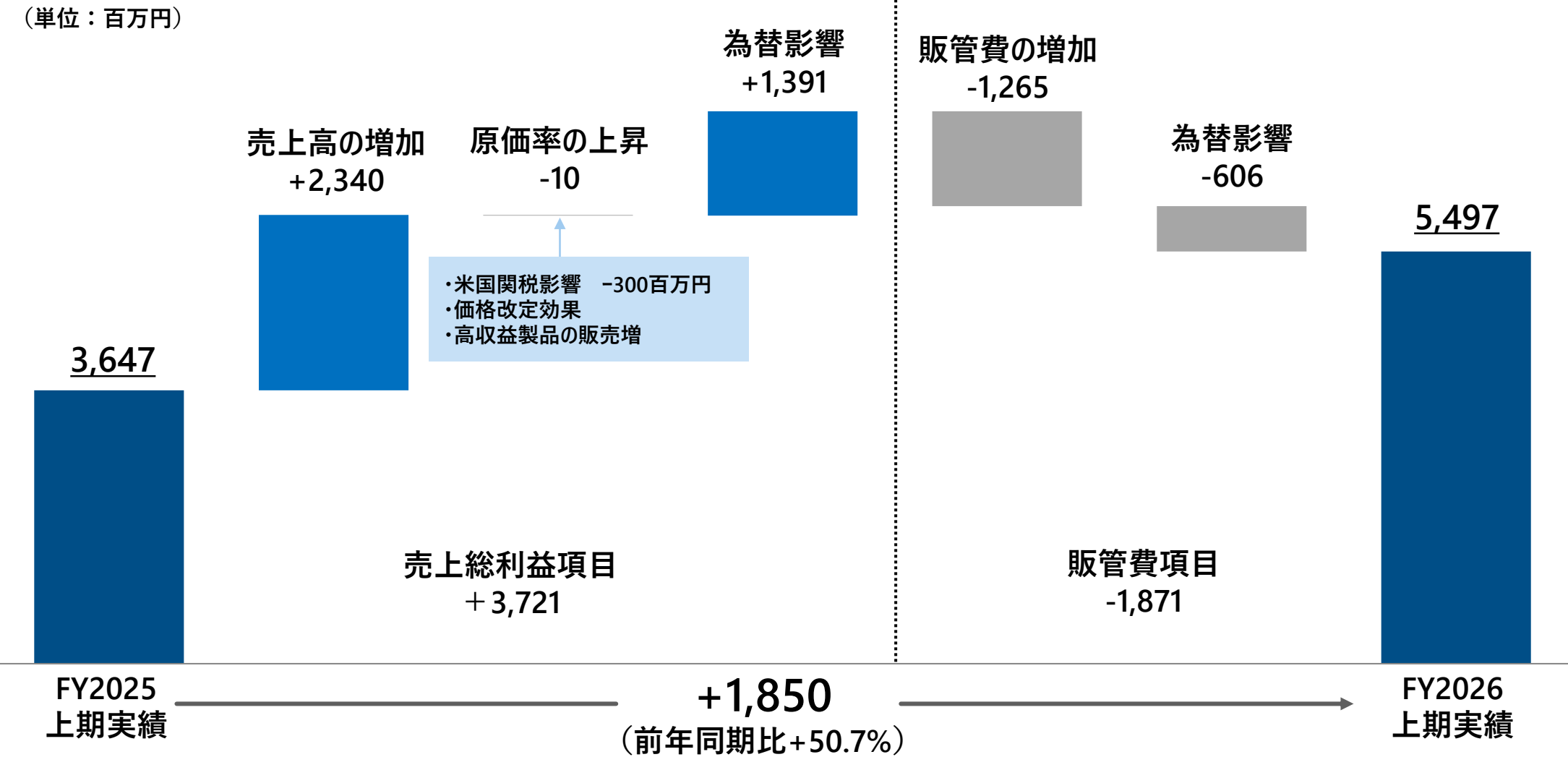
※セグメント別の営業利益は、セグメント間取引の営業利益を含む数値を表示しています。

2026年12月期 上期連結売上高 増減要因 前年同期比

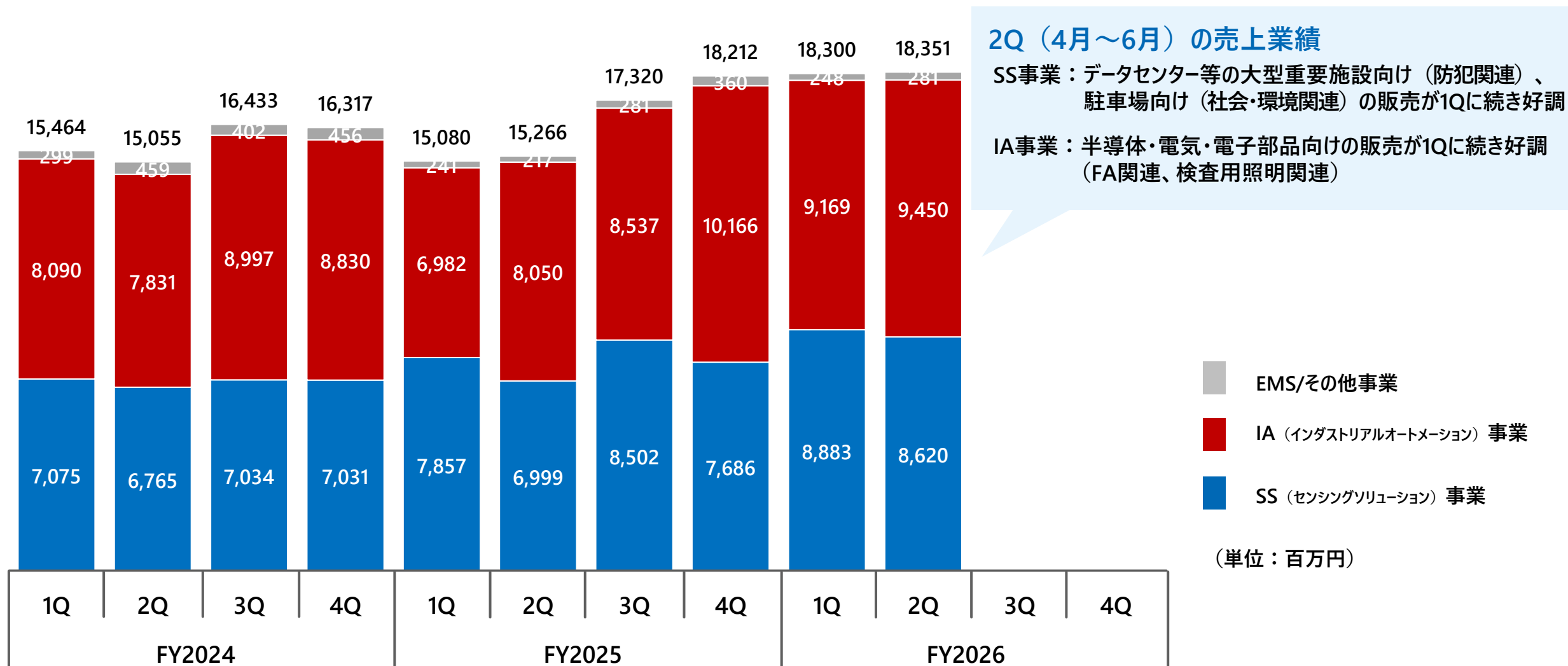
(単位：百万円)



2026年12月期 上期連結営業利益 増減要因 前年同期比



連結売上高 四半期推移（FY2024-FY2026）



SS事業 – 防犯関連

地域	FY2026 上期 業績のポイント
日本	・警備会社向けの販売が低調 ・大型重要施設向けの受注が好調に推移
米州	・データセンター含む大型重要施設向けに レーザースキャンセンサーの販売が好調
欧州・中東・アフリカ	・データセンター含む大型重要施設向けに レーザースキャンセンサーの販売が好調
アジア	・データセンター含む大型重要施設向けに レーザースキャンセンサーやLED照明の販売が好調



データセンターでの侵入検知例

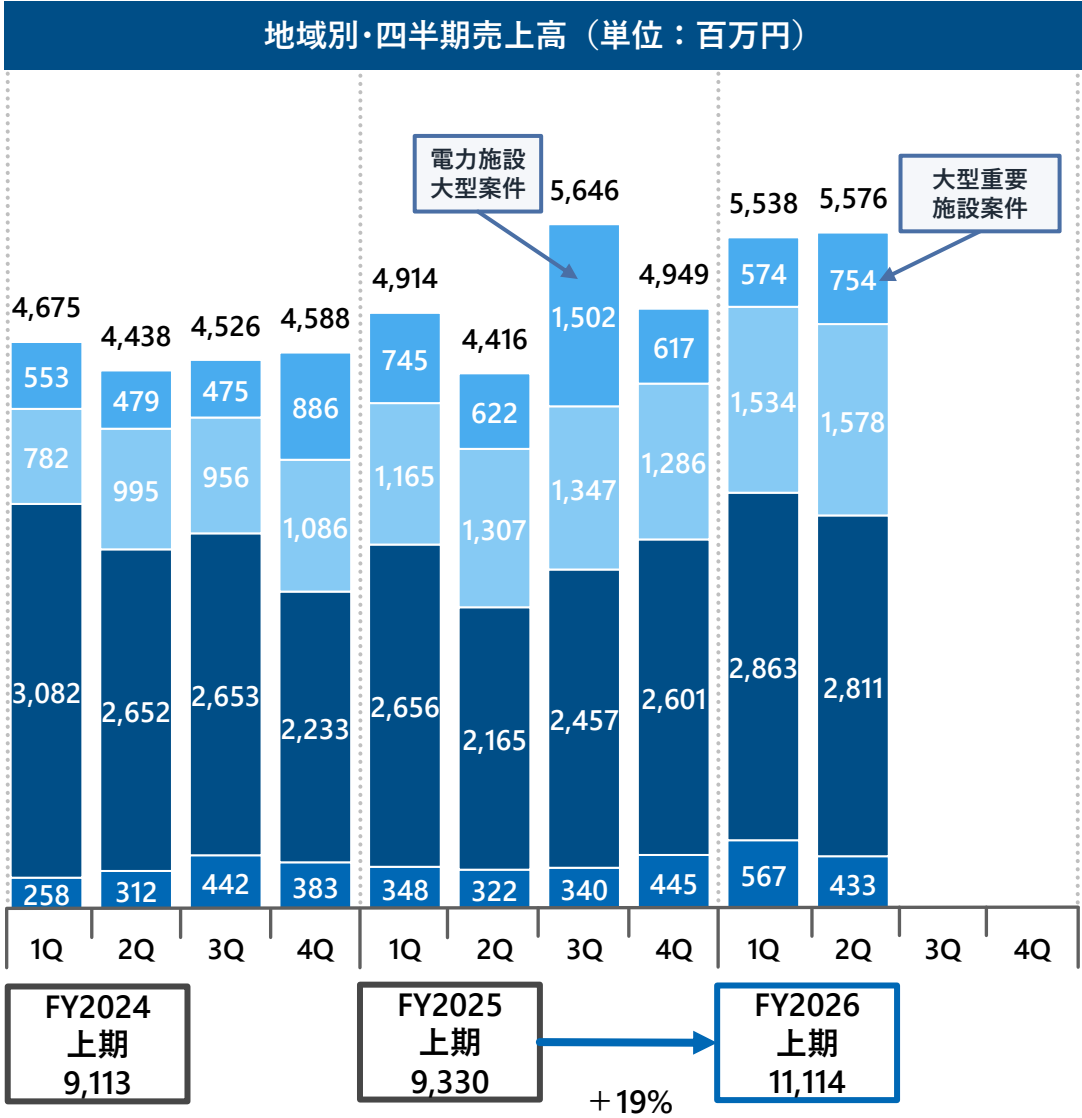


屋内用



屋外用

大型重要施設向け
レーザースキャンセンサー

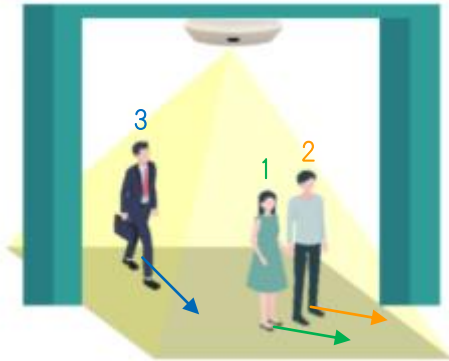


SS事業 – 自動ドア関連

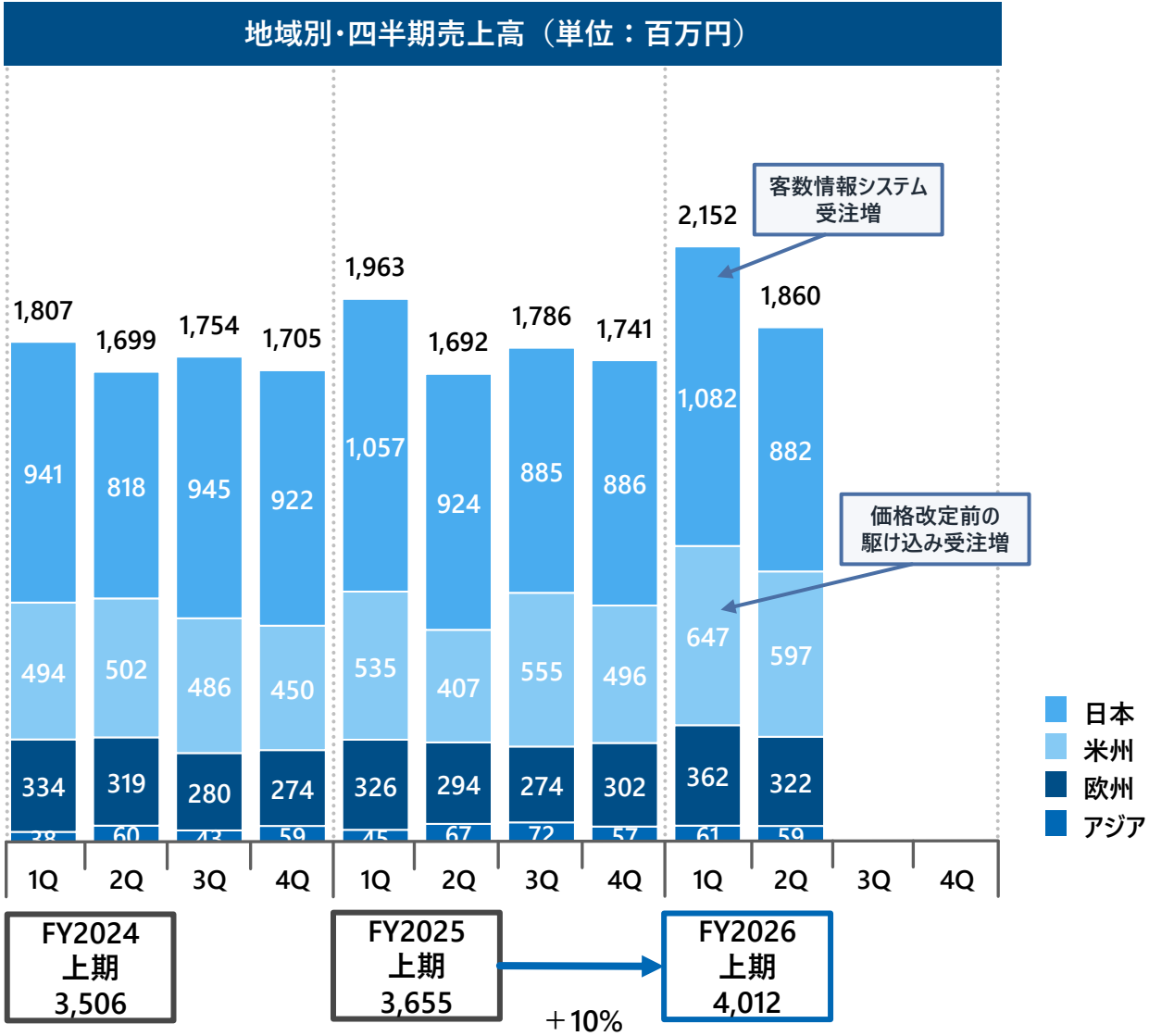
地域	FY2026 上期 業績のポイント
日本	・自動ドア用センサーの販売が軟調 ・商業施設向けに客数情報システムの販売が堅調
米州	・自動ドア用センサー、シャッター用センサーの販売が好調
欧州	・自動ドア用センサーの販売が順調



自動ドア用センサー

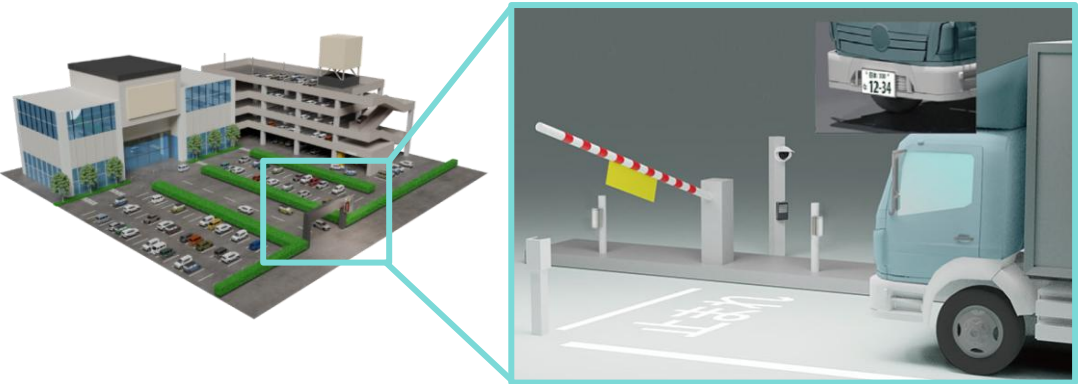


客数情報システム

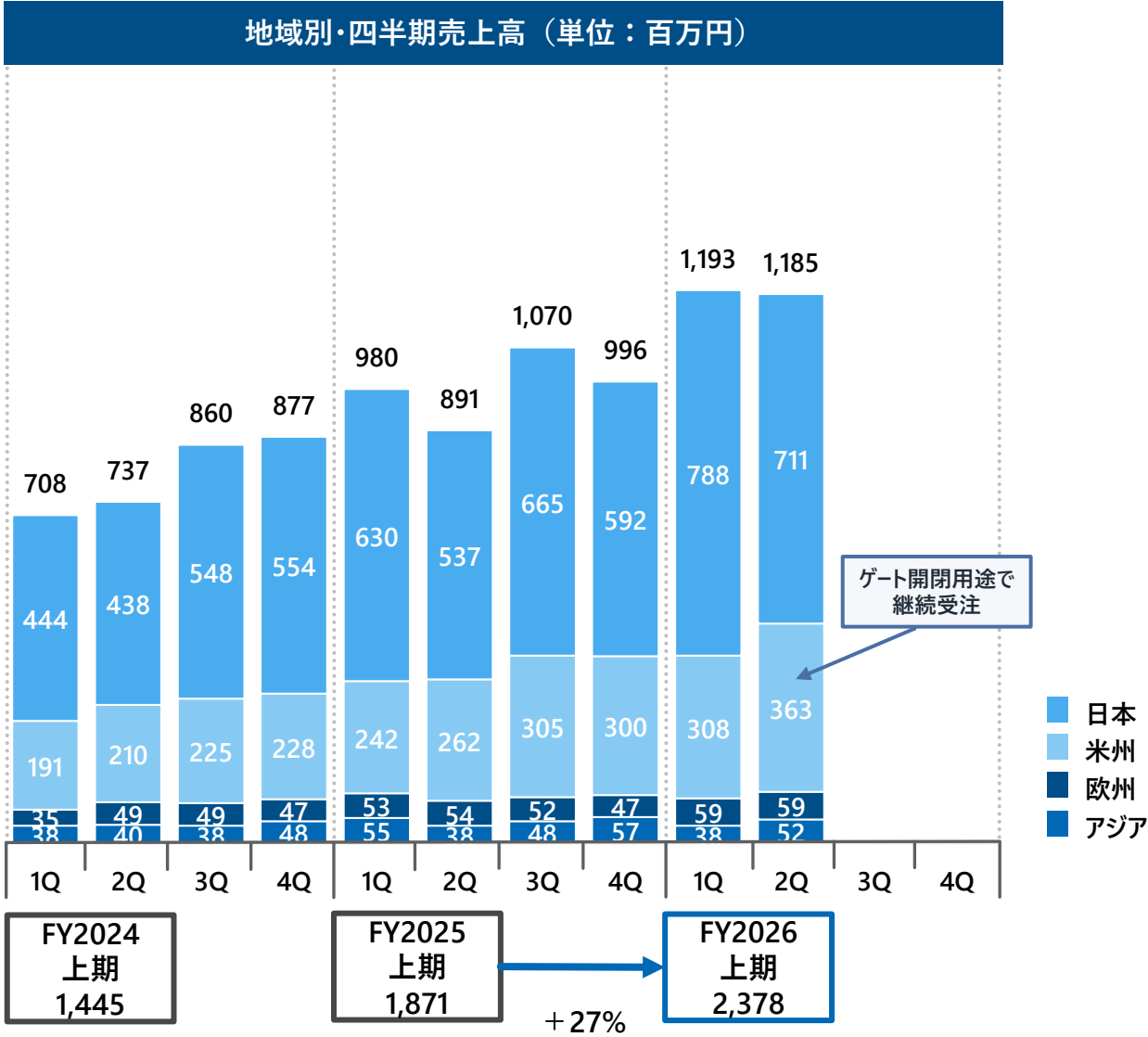


SS事業 – 社会・環境関連

地域	FY2026 上期 業績のポイント
日本	・駐車場の車番認証用センサーおよび照明、大型商業施設向け満空管理システム等、ソリューション販売が好調 ・上水・下水向け等に水質センサー、データマネジメントサービスの販売が順調
米州	・駐車場のゲート開閉用途で車両検知センサーの販売が好調

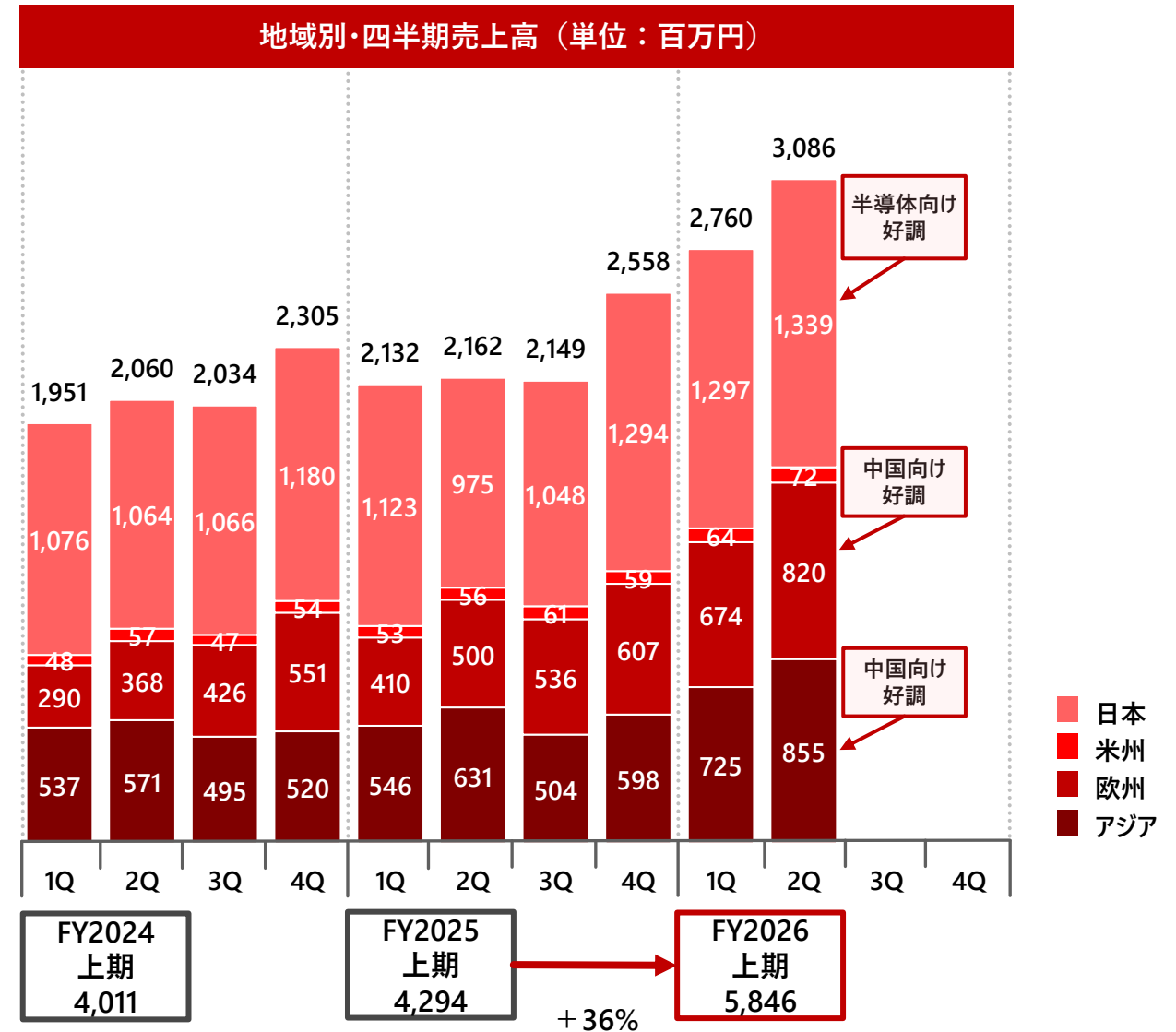
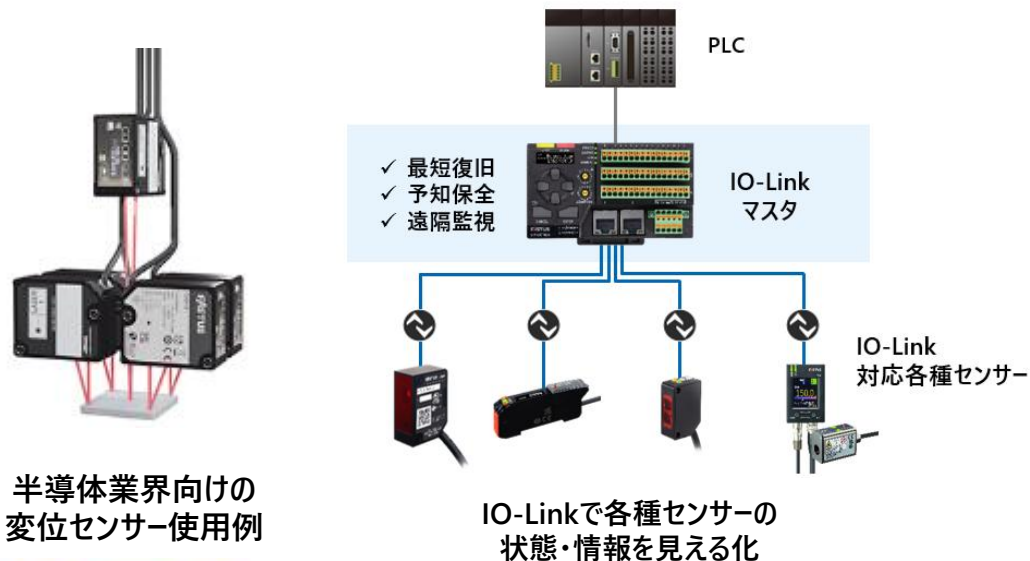


車番認証システム



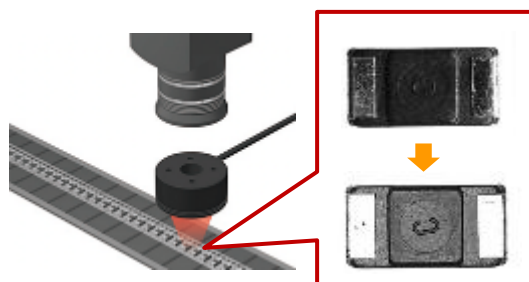
IA事業 – FA関連

地域	FY2026 上期 業績のポイント
日本	・半導体、電気・電子部品関連業界向けにFAセンサーおよび検査用LED照明の販売が好調
欧州	・主要顧客（OEM先）の米国および中国の最終顧客向けに販売が好調
アジア	・中国での電池、電気・電子部品向けの販売が好調



IA事業 – 検査用照明関連（旧MVL関連）

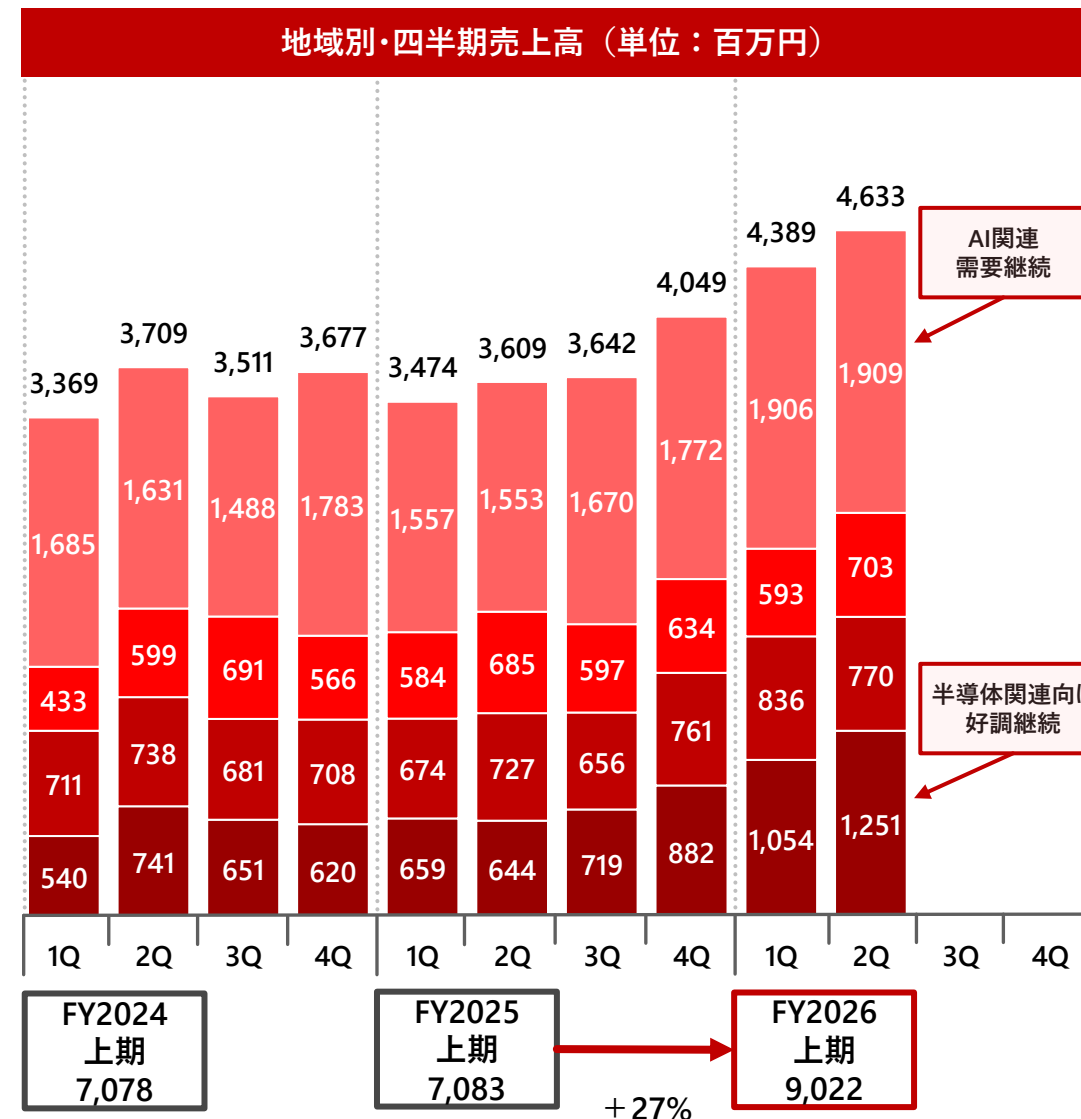
地域	FY2026 上期 業績のポイント
日本	・AI向けの設備投資需要拡大により、半導体、電気・電子部品向け販売が好調
米州	・物流業界向けを中心とした販売が前年並みに推移
欧州	・物流業界向けにフランス子会社製品の販売が好調
アジア	・中国、東南アジアで半導体関連向け販売が好調



電子部品の外観検査ソリューション



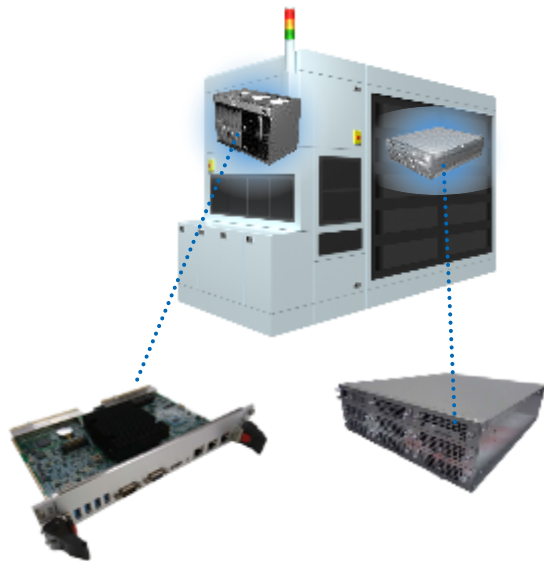
物流業界向け使用イメージ



日本
米州
欧州
アジア

IA事業 – 産業用PC関連（旧IPC関連）

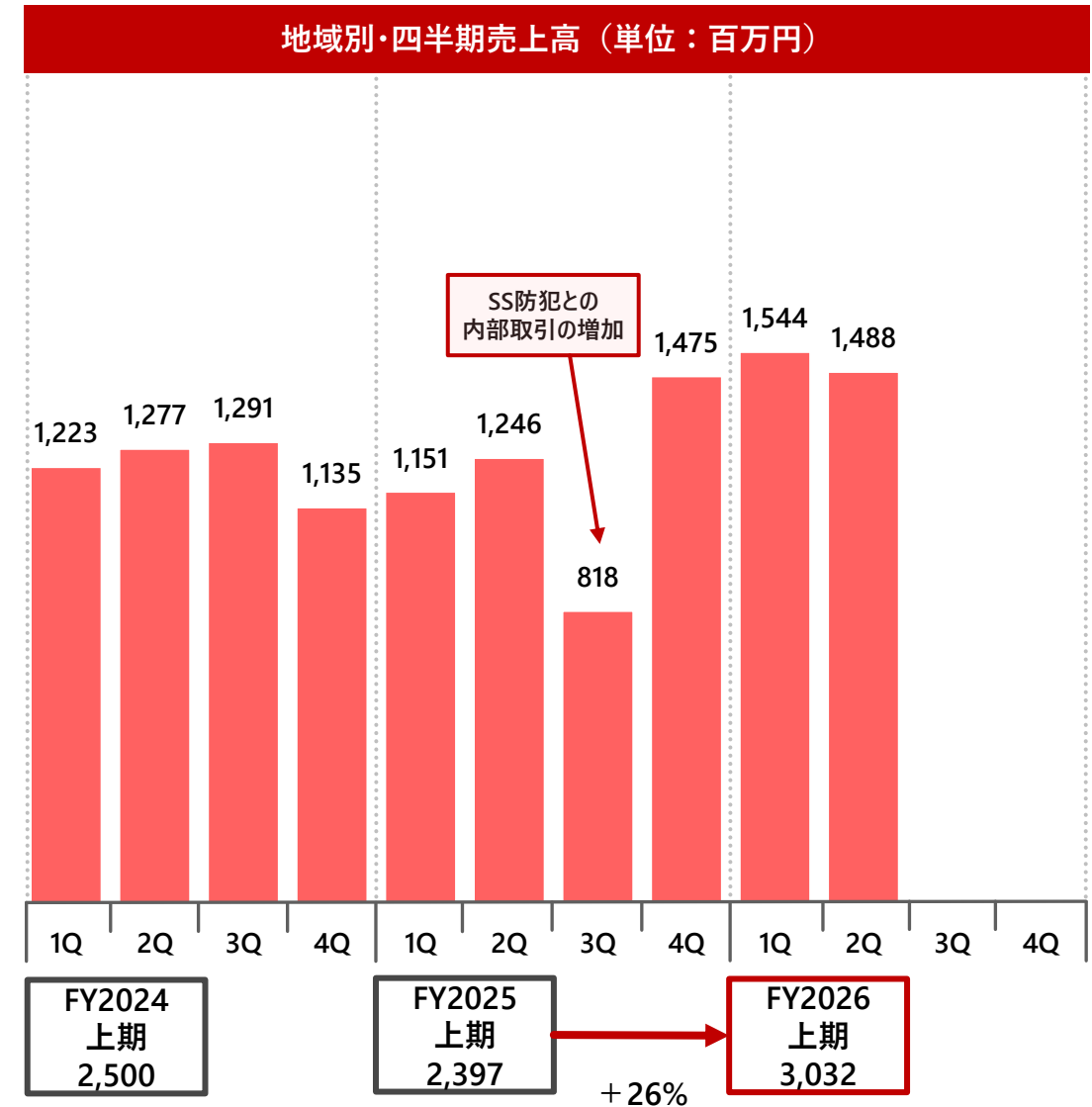
地域	FY2026 上期 業績のポイント
日本	・半導体製造装置向けの販売が好調



半導体製造装置の産業用コンピュータ



追尾用カメラ



IA事業 – 自動化装置関連（旧MECT関連）

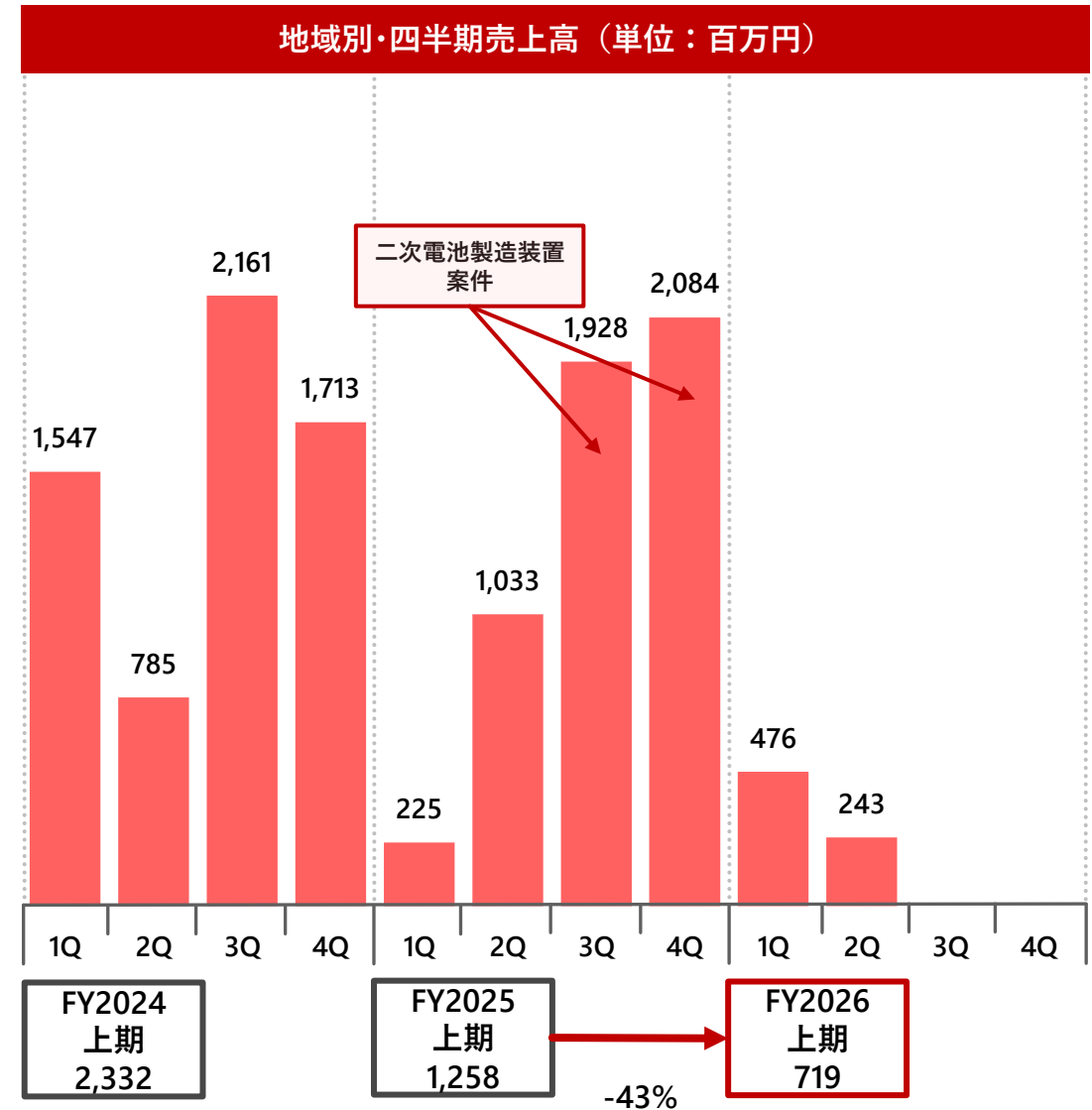
地域	FY2026 上期 業績のポイント
日本	EV向けの設備投資需要の一巡により、二次電池製造装置の売上が減少



電気自動車・ハイブリッド車向け
二次電池製造装置



非接触 三次元形状測定機



1. 2026年12月期 上期決算概要
2. 2026年12月期 業績予想（上方修正）

2026年12月期 今後の見通し

SS事業：Sensing Solution（センシングソリューション）事業

IA事業：Industrial Automation（インダストリアルオートメーション）事業

SS 事業	防犯	データセンターやインフラ施設投資の増加を背景に、防犯需要は拡大継続の見通し。 グローバルで大型重要施設向けソリューション提案を強化し成長を継続。防衛分野は将来の成長機会として注力。
	自動ドア	海外は堅調な北米市況を背景に業績拡大を見込む。欧州市況は軟調継続の見通し。 国内は客数情報カウントシステム販売と遠隔管理ニーズに対応した製品・システム拡充により堅調継続の見通し。
	社会・環境	国内は駐車場の環境配慮・省人化・効率化を背景に関連システム需要拡大が継続。 北米では製品ラインアップ強化によりループコイルから車両検知センサーへの置換・普及が進み、成長継続の見通し。

IA 事業	FA ファクトリーオートメーション	国内では半導体・電子部品業界を中心に設備投資需要の回復が継続し、IO-Link製品や変位センサーの需要拡大が継続。海外では中国市場の電池・電子部品向け設備投資が堅調に推移し、変位センサー需要も拡大。
	検査用照明 (IBMVL)	AI関連投資の活況を背景に半導体・電子部品向け需要が拡大。半導体製造装置向けを中心に旺盛な設備投資需要が継続。プライベート展示会やソリューションの拡充により、新たな需要の開拓を推進。
	産業用PC (IBIPC)	半導体製造装置向けの引き合いがさらに拡大し、旺盛な設備投資需要が継続。 一部部材の需給動向に留意しつつ需要拡大に対応。
	自動化装置 (IBMECT)	EV向け二次電池製造装置が車載電池市場の供給過剰を背景に伸び悩み、慎重な市場環境が続く見込み。

2026年12月期 連結業績予想（上方修正・7月31日開示） 過去最高業績の達成を目指す

単位：百万円 （ ）：対売上高比	FY2026 期初予想	FY2026 修正予想	対期初予想 増減率	対前年 増減率	FY2025 実績
売上高	69,000	73,300	+6.2%	+11.3%	65,878
売上総利益	36,515 (52.9%)	39,050 (53.3%)	+6.9%	+13.9%	34,291 (52.1%)
販売費及び一般管理費	27,715 (40.2%)	28,550 (38.9%)	+3.0%	+9.2%	26,137 (39.7%)
営業利益	8,800 (12.8%)	10,500 (14.3%)	+19.3%	+28.8%	8,153 (12.4%)
経常利益	8,800 (12.8%)	10,800 (14.7%)	+22.7%	+35.0%	8,000 (12.1%)
親会社株主に帰属する当期純利益	6,600 (9.6%)	7,700 (10.5%)	+16.7%	+16.2%	6,595 (10.0%)
1株当たり当期純利益（円）	185.28	216.11			185.16

為替レート

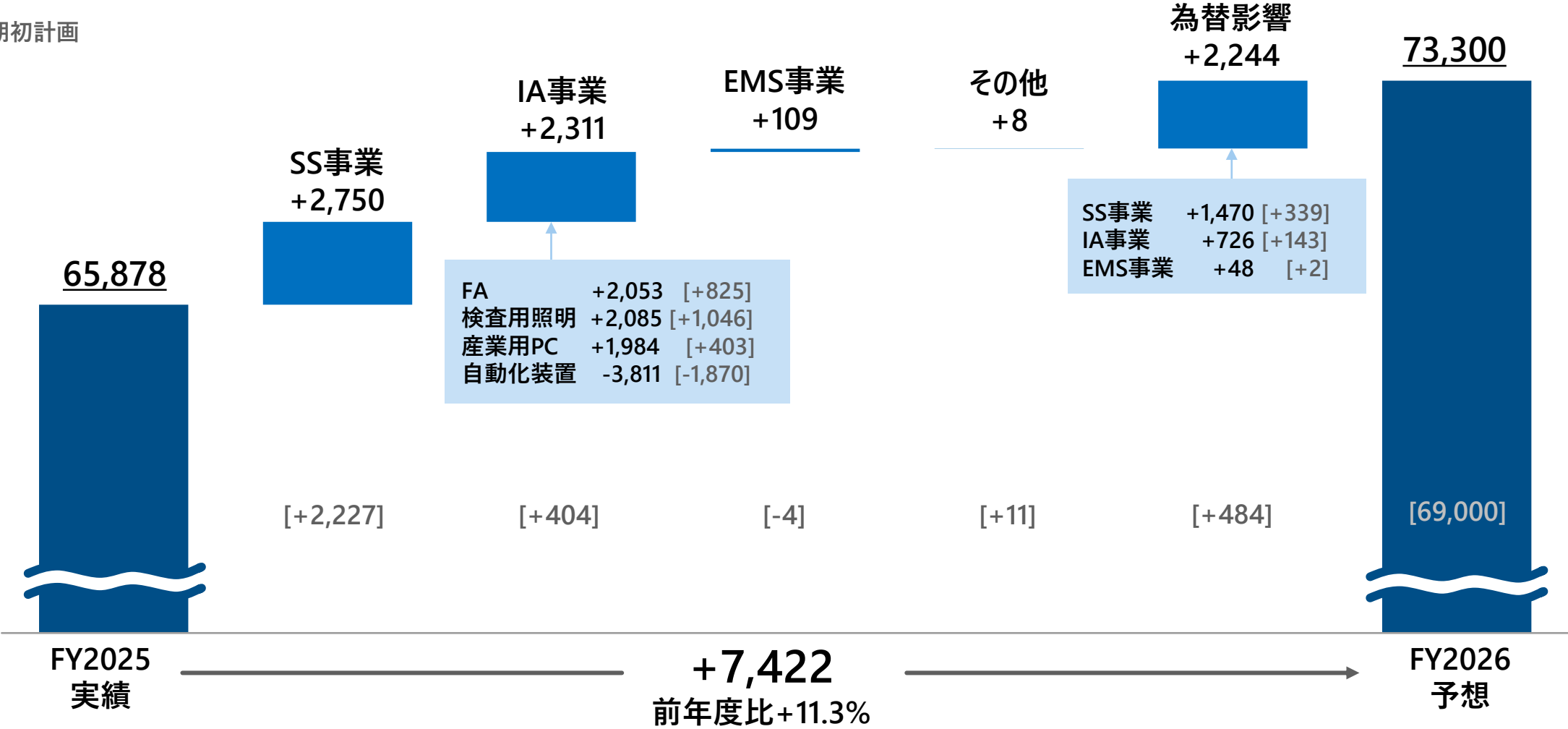
	FY2026 期初予想	FY2026 修正予想	FY2025 実績
1USD	150.00円	156.59円	149.71円
1EUR	175.00円	182.26円	169.00円
1GBP	200.00円	208.88円	197.25円

為替感応度（FY2026予想、1円変動による影響額）

	売上高	営業利益
USD1円相当	約130百万円	約50百万円
EUR1円相当	約60百万円	約40百万円
GBP1円相当	約30百万円	約10百万円

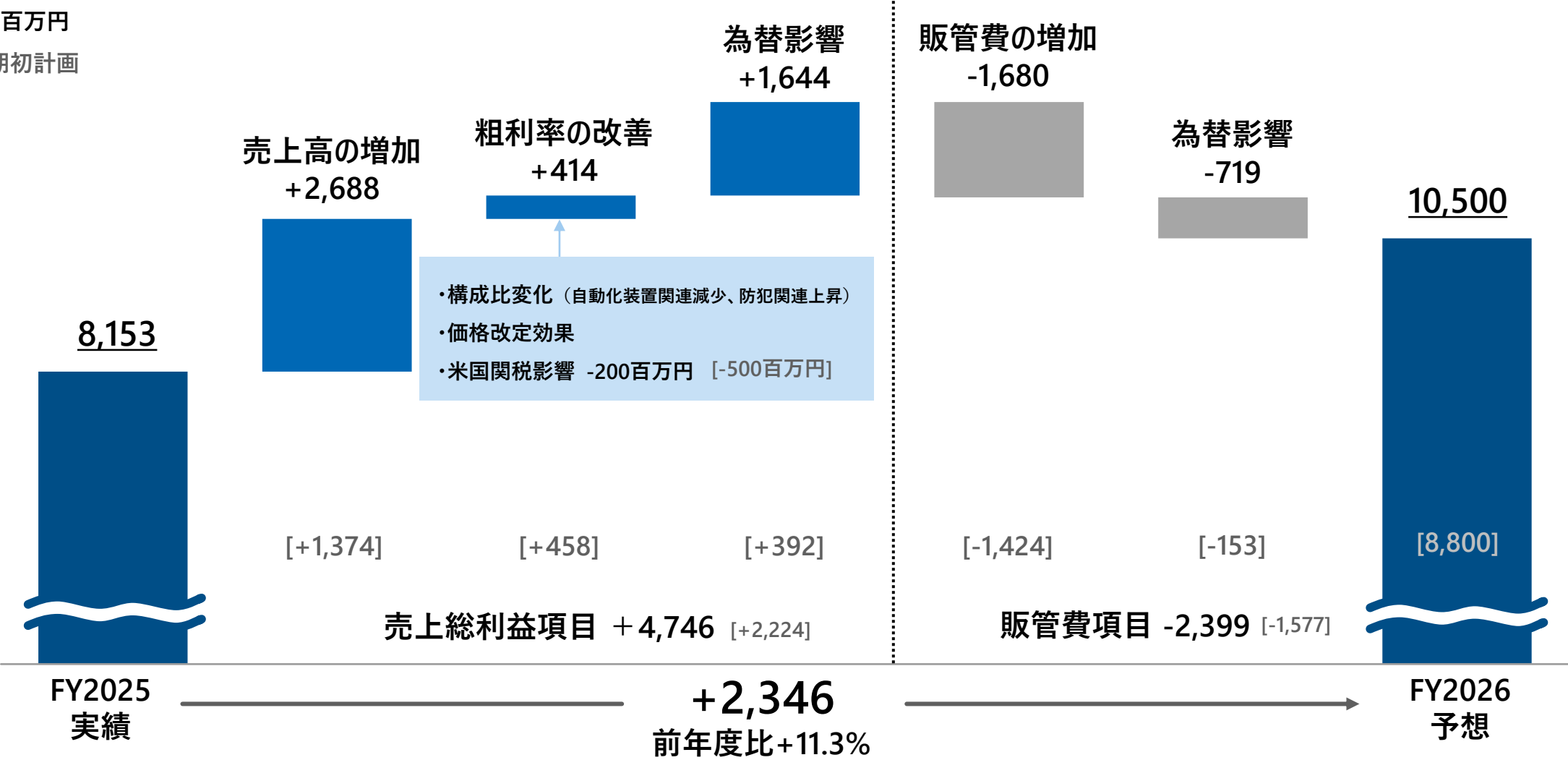
2026年12月期 連結業績予想 売上高 増減要因 前年度比

単位：百万円
[]：期初計画



2026年12月期 連結業績予想 営業利益 増減要因 前年度比

単位：百万円
[]：期初計画

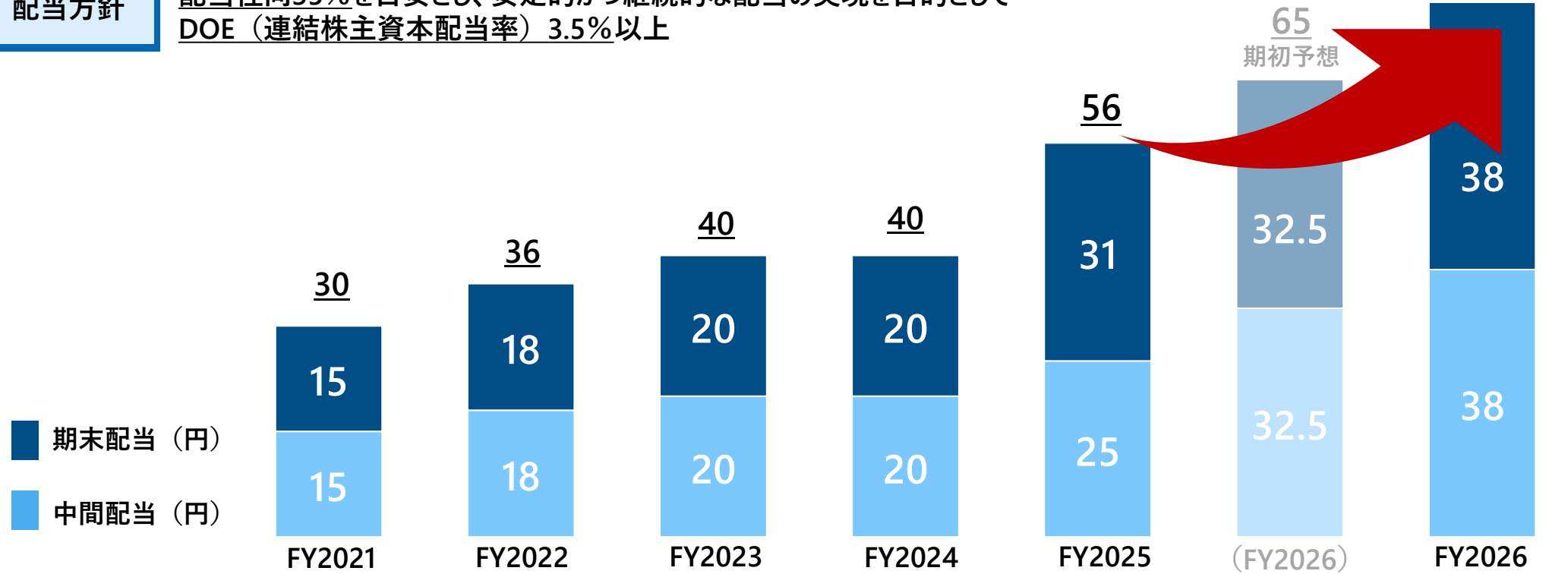


株主還元

年間配当額を、前年度比20円増配の76円に引き上げ。期初予想から11円の増配。

配当方針

配当性向35%を目安とし、安定的かつ継続的な配当の実現を目的として
DOE（連結株主資本配当率）3.5%以上



配当性向	28.8%	26.9%	30.8%	25.0%	30.2%	35.1%	35.2%
DOE	3.2%	3.4%	3.4%	3.0%	3.8%	4.0%	4.6%
ROE	11.2%	12.8%	11.1%	12.2%	12.5%	-	-



参考資料

2030年（FY2030）までの成長ビジョン

事業ポートフォリオ経営を徹底し、課題事業を果敢に見直す。
基幹事業はソリューション提案型へ進化させ、企業価値向上につなげる。

FY2030 企業価値創出に向けた重要指標

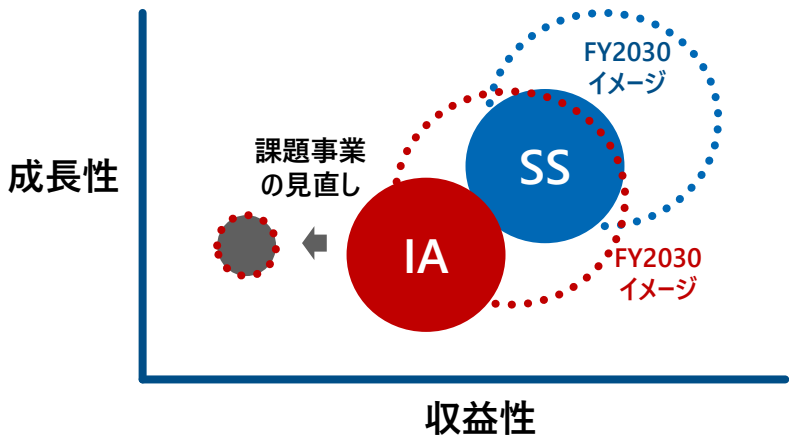
連結売上高：1,000億円

営業利益率：15%以上

R O E：15%安定

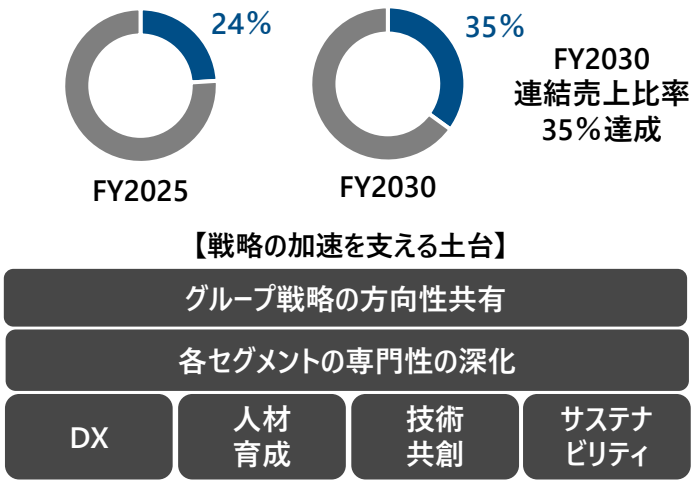
全事業に一律に投資するのではなく
経営資源の最適配分により
高収益・安定成長を実現する

FY2030 事業ポートフォリオイメージ



課題事業は、縮小や撤退を含め、
聖域なく見直す

ソリューション提案型の ビジネスモデルを拡大

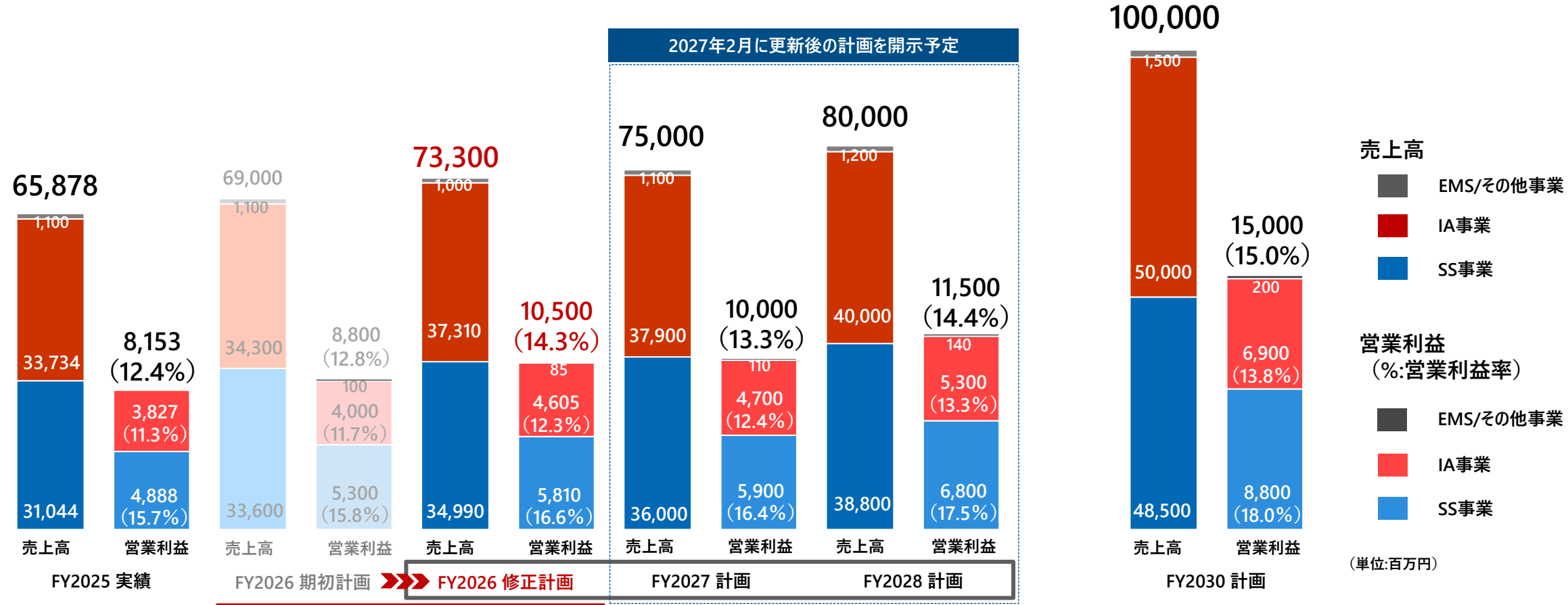


各事業において専門性をさらに磨き、
スピードを武器に競争を勝ち抜く

3カ年（FY2026-2028）の経営計画

※当社では、市場環境の急速な変化に柔軟に対応するために、毎期改定するローリング方式で3カ年の経営計画を発表しています。

FY2027およびFY2028の計画値は、FY2026通期決算発表時（2027年2月）に3カ年経営計画のローリングを実施し、更新後の計画を開示予定。



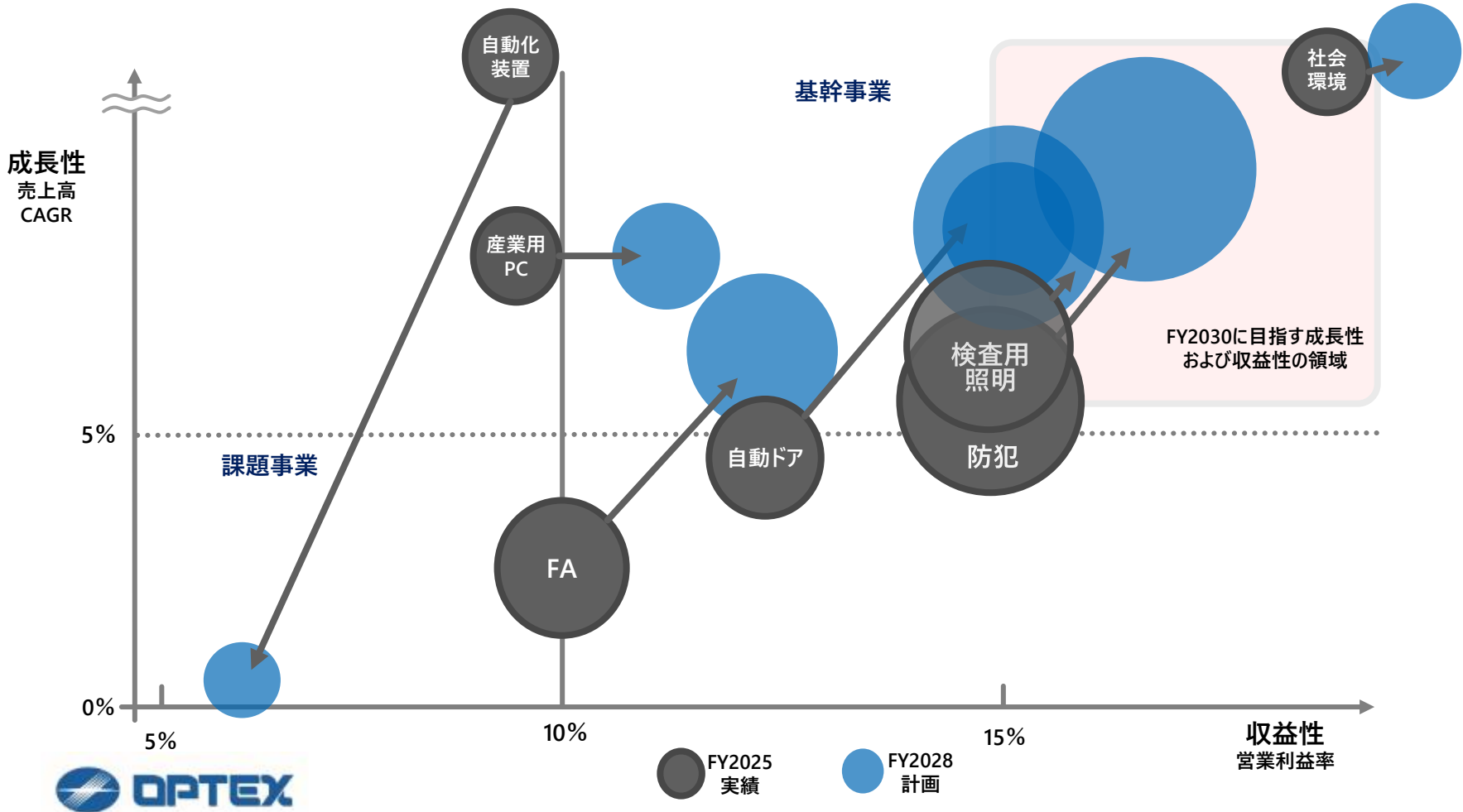
※ 棒グラフ内のセグメント別営業利益は全社調整額（本社費用等）を含まないため、上部に表示した営業利益合計とは一致しません。



事業ポートフォリオ経営の推進

成長性および収益性の高い基幹事業へ経営資源を最適配分し、FY2028までの3年間で高収益体質を確立する。
FY2030には、営業利益率15%以上の達成を目指す。

成長性×収益性 ポートフォリオ



重点強化テーマ

基幹事業

- ✓ 開発・人材・販路・生産/供給等、経営資源を重点的に配分
- ✓ ソリューション提案ビジネスを拡大
- ✓ M&A/提携で非連続成長を取り込む

課題事業

- ・ 成長性・収益性・戦略性の観点から評価を行う
- ・ FY2028までに、縮小や撤退を含め、聖域なく見直す

注：

1. 円の大きさ＝売上規模
2. SS、FA、検査用照明：
持株会社化以降CAGR
FY2017-2025、FY2020-2028
(※コロナ影響の大きいFY2020は算定から除外)
3. 産業用PC／自動化装置：
連結子会社化以降CAGR
・産業用PC：FY2021-2025、FY2024-2028
・自動化装置：FY2022-2025、FY2025-2028

ソリューション提案ビジネスの目標および進捗状況

構造転換により、高付加価値製品の採用拡大につなげ、FY2030連結営業利益率15%達成を目指す。

従来型（モノ売り視点）

製品の販売
||
高水準の仕様、性能、品質



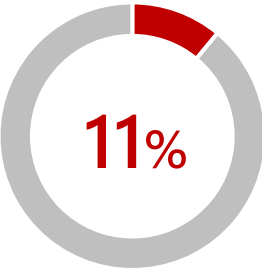
ソリューション提案型（顧客の真の要望に焦点を当てる）

高付加価値製品の提供
+
システム販売やセット販売、データ提供、アフターサービス強化など

✓ トップラインの拡大 ✓ 収益性の向上 ✓ 継続性の強化

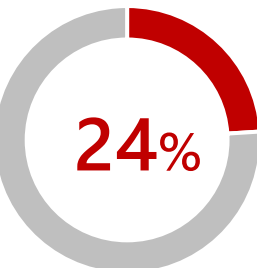
ソリューション提案ビジネス 売上高比率推移

FY2017実績



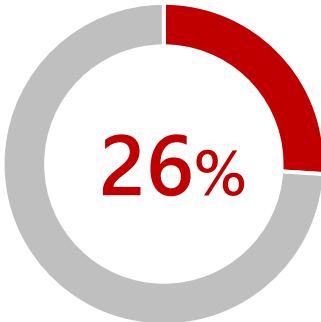
40億円

FY2025実績



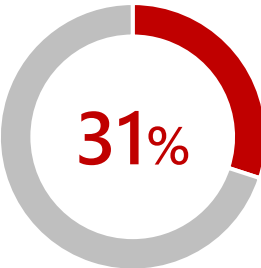
158億円

FY2026上期実績



95億円

FY2028目標



250億円

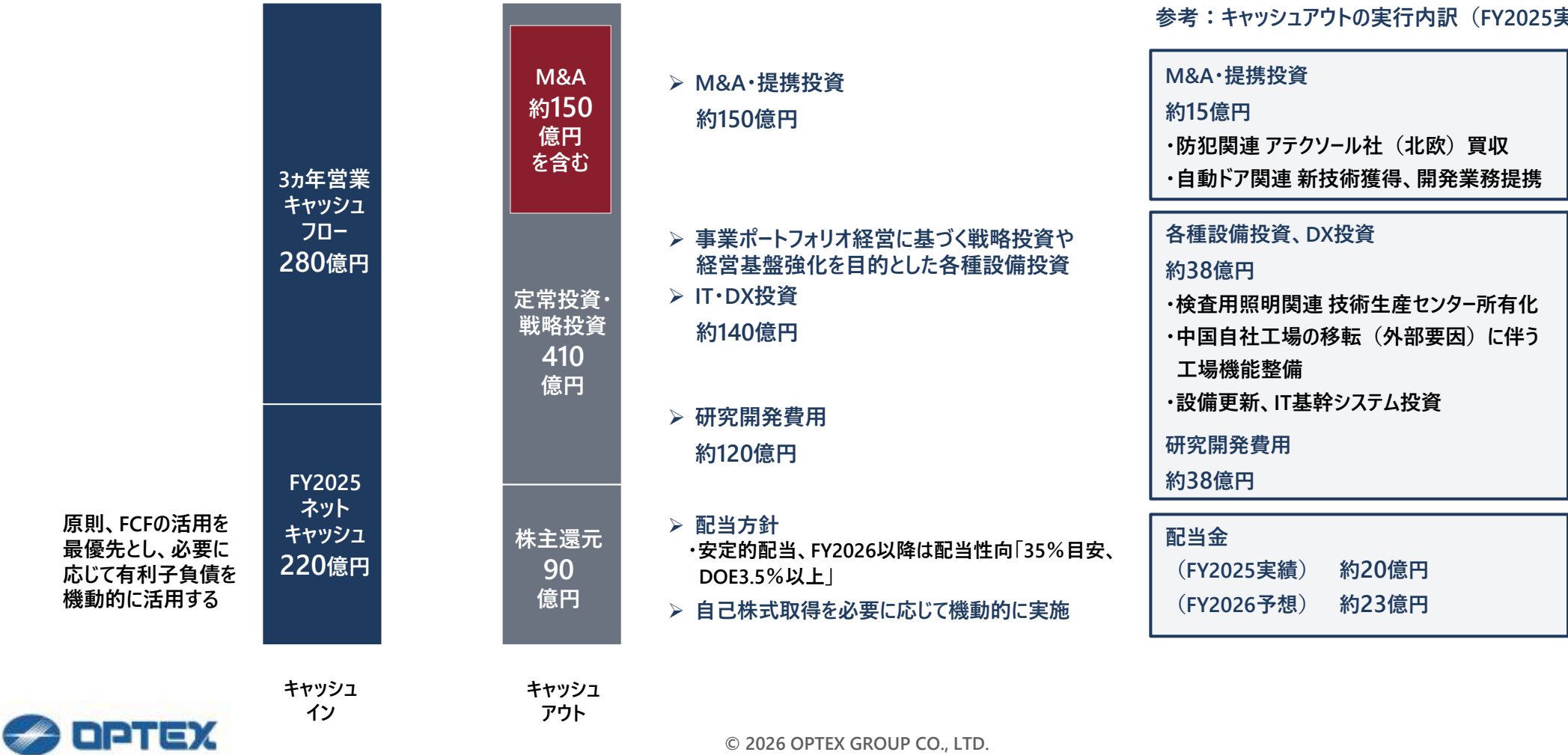
キャピタルアロケーション計画

キャピタルアロケーション方針（FY2026－2028 3カ年経営計画）

FY2028に連結営業利益115億円の達成を前提に、戦略投資の中にM&A・提携投資として約150億円を配分する。

株主還元は、FY2026から配当性向35％を目安、DOE3.5％以上に変更。

参考：キャッシュアウトの実行内訳（FY2025実績）



M&A方針

基本方針

- ・規模拡大のみを追求せず、相乗効果・成長性・収益性を重視する。
- ・専門性を深めることで長期的な企業価値の向上に資するM&Aを目指す。

投資方針

- ・買収資金の優先順位は、①フリーキャッシュフロー ②借入とする。（且つ、株主資本コストを意識）
- ・想定した価値創出が見通せない場合には、事業価値最大化の観点から投資を見直す。

M&Aテーマ

専門領域拡張のため、基幹事業に関連する技術・知財・販路・人材を獲得し、ソリューションの高度化を通じて収益基盤を強化する。



会社概要

会社概要

会社名	オプテックスグループ株式会社
所在地	滋賀県大津市
創立日	1979年5月25日
資本金	2,798百万円
売上高	65,878百万円
営業利益	8,153百万円
決算月	12月
証券コード	東京証券取引所プライム上場 6914
連結従業員数	2,162名（派遣・パート・アルバイト除く）

※2025年12月末時点

■ 会社名の由来

オプテックスグループ

OPTEX

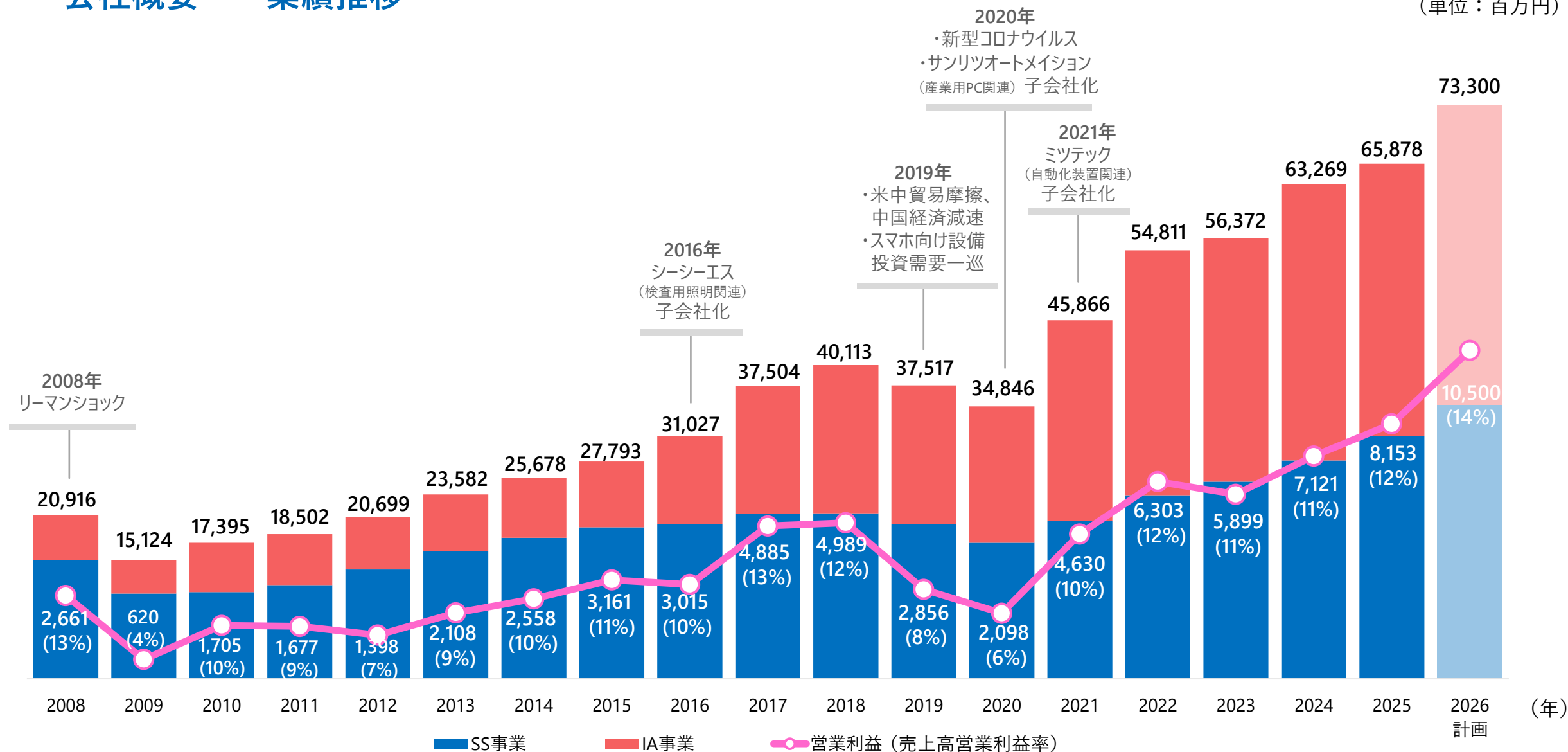
OPtical TEchnology
光学技術

X
未知、未来 (=ギリシャ語)

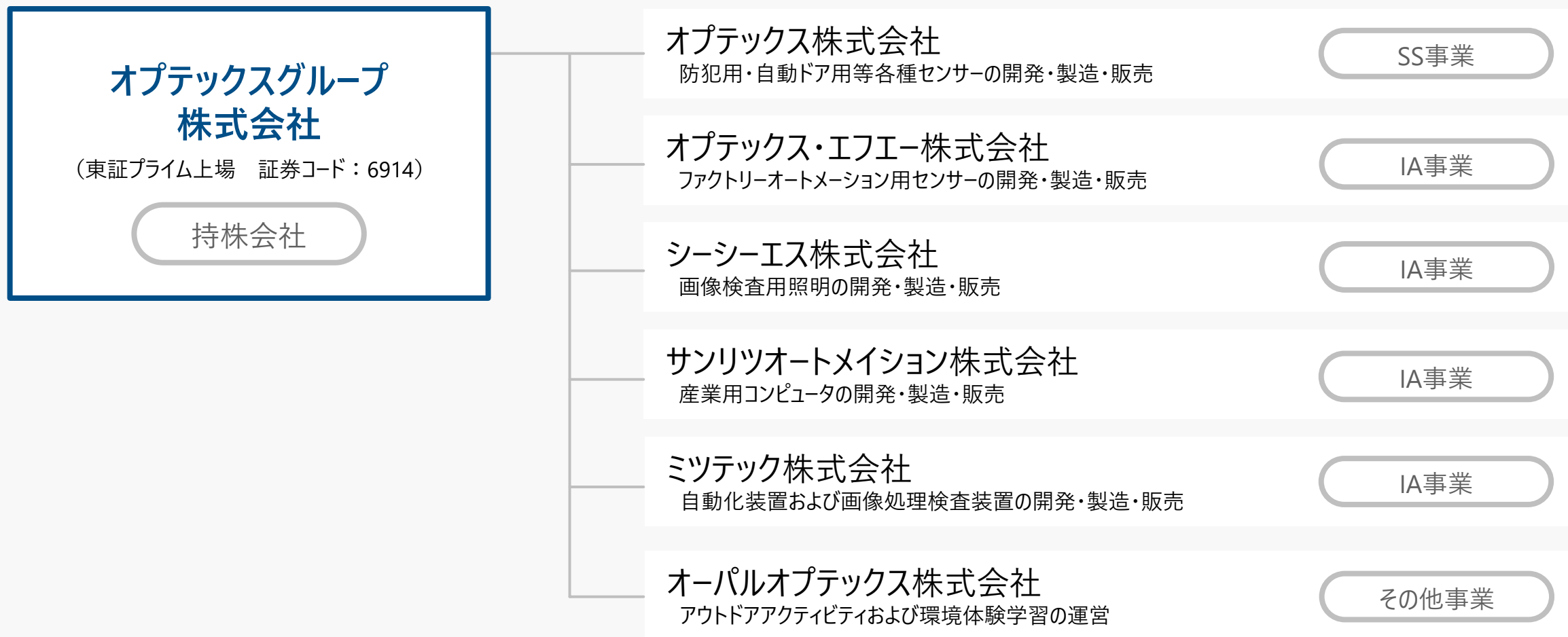


会社概要 — 業績推移

(単位：百万円)



会社概要 – 体制図



会社概要 — 事業構成

オプテックスグループはグローバルニッチNo.1を目指す企業集団です

IA（インダストリアルオートメーション）事業

自動化装置関連

自動車向けの二次電池製造装置を提供



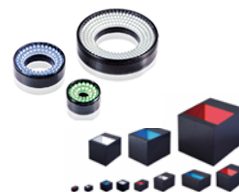
産業用PC関連

半導体製造装置向けの組込ボードや
空港向けの追尾用カメラを提供



検査用照明関連

工場の検査工程で検査の品質向上に
役立つ照明を提供



FA関連

工場の生産工程で自動化・省人化に
役立つセンサーを提供



SS（センシングソリューション）事業

防犯関連

住宅、事業所、大型重要施設向けの
防犯センサーを提供



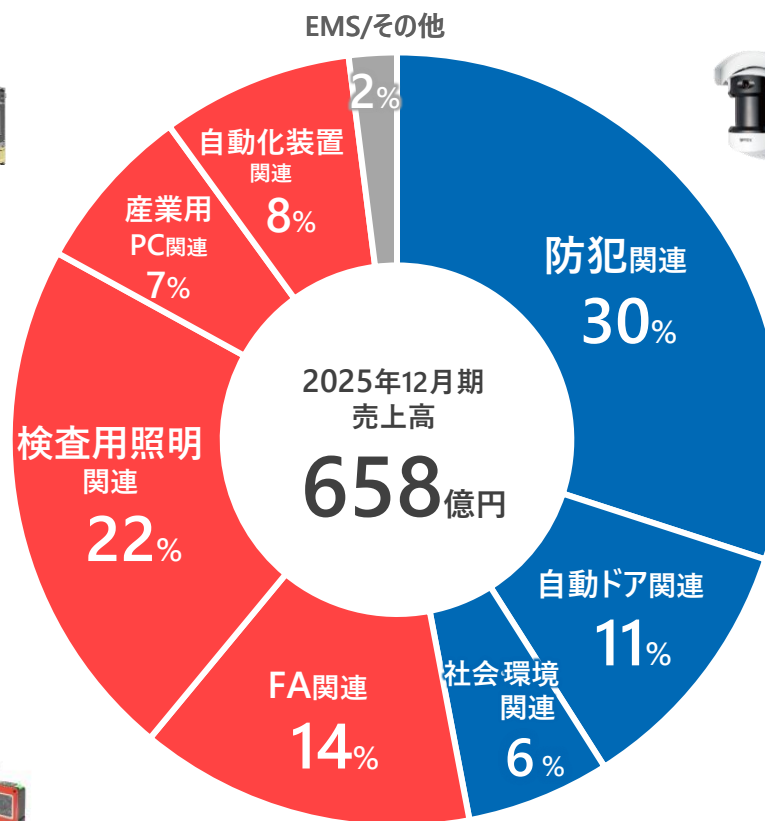
自動ドア関連

自動ドア用センサー、工場や倉庫の
シャッター用センサーを提供

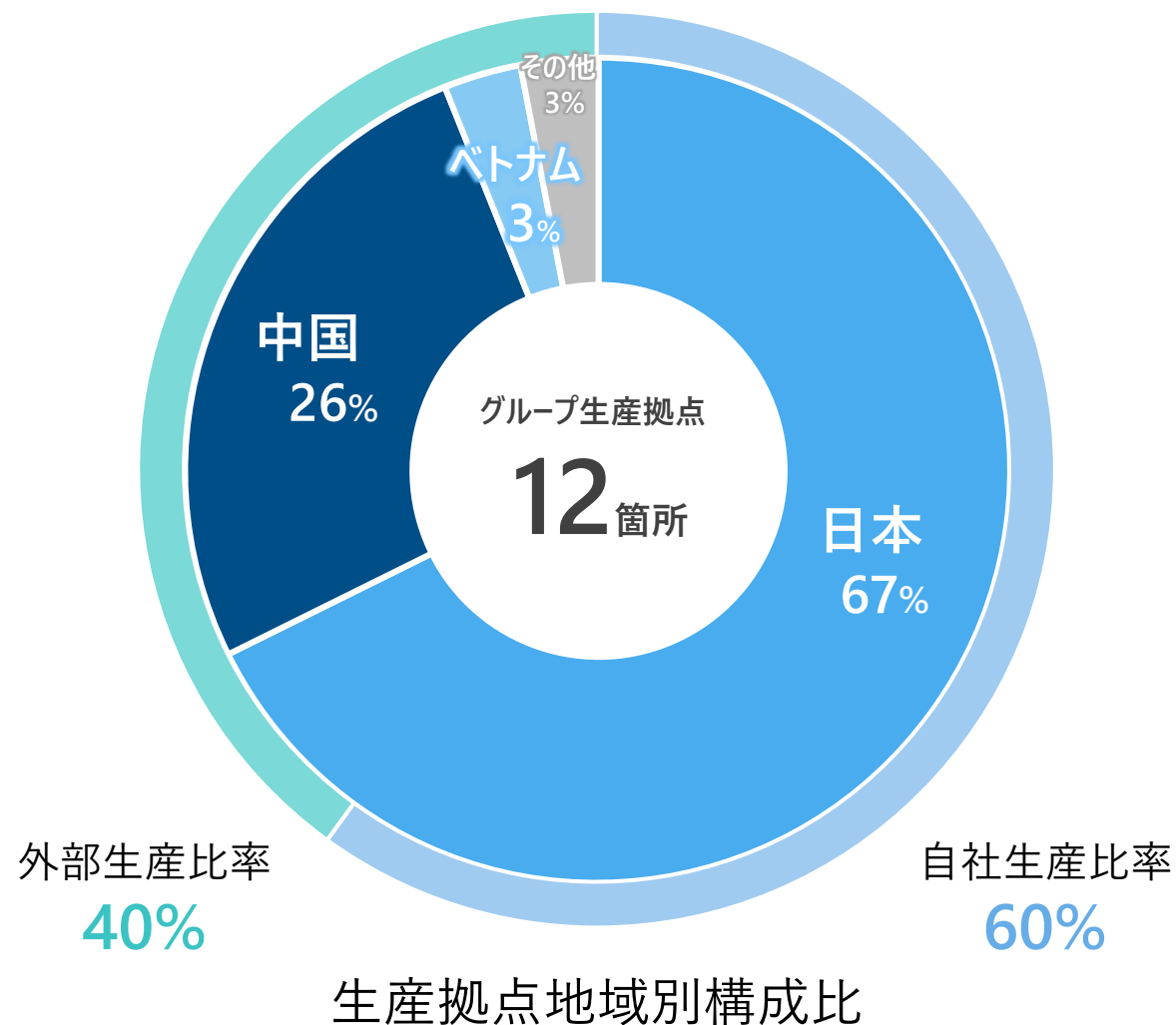
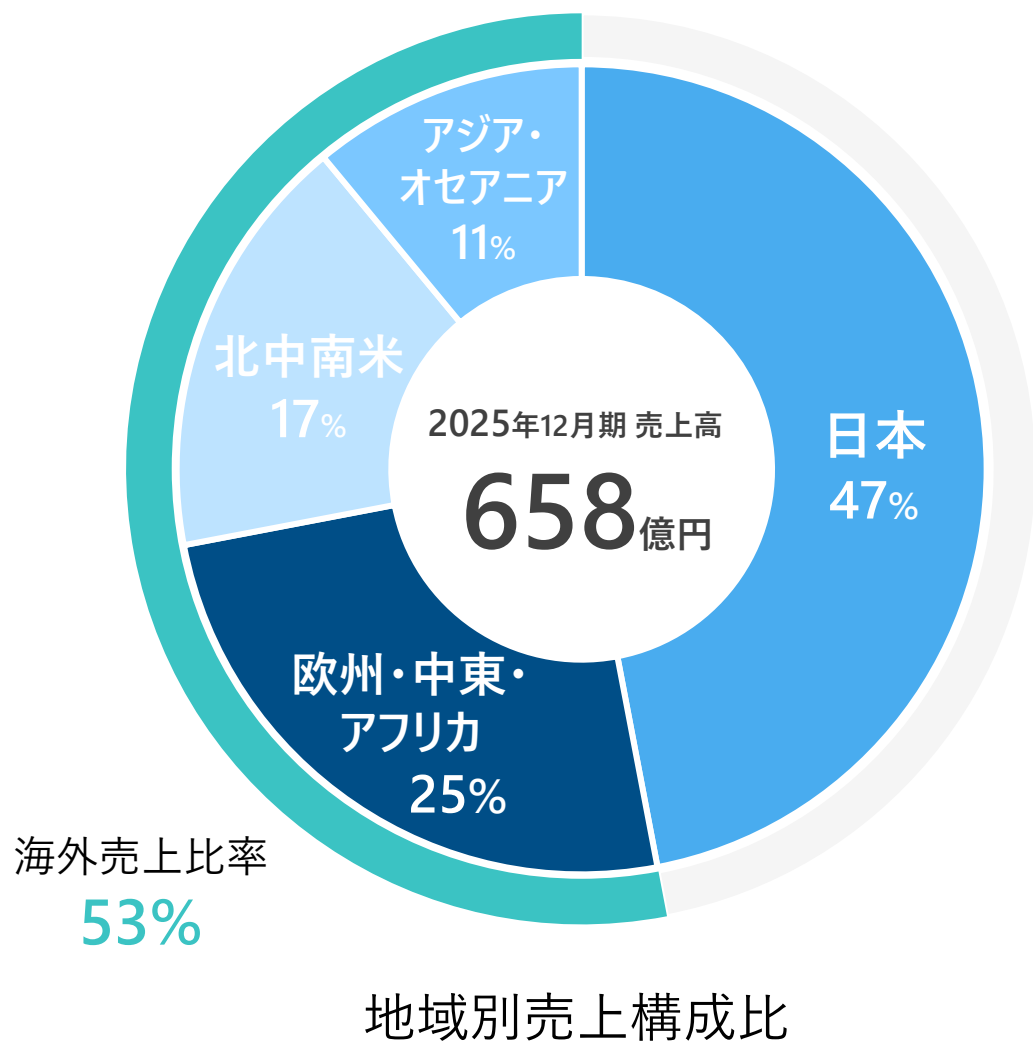


社会・環境関連

駐車場向けの車両検知センサーや
上水・下水向けの水質計測センサーを提供

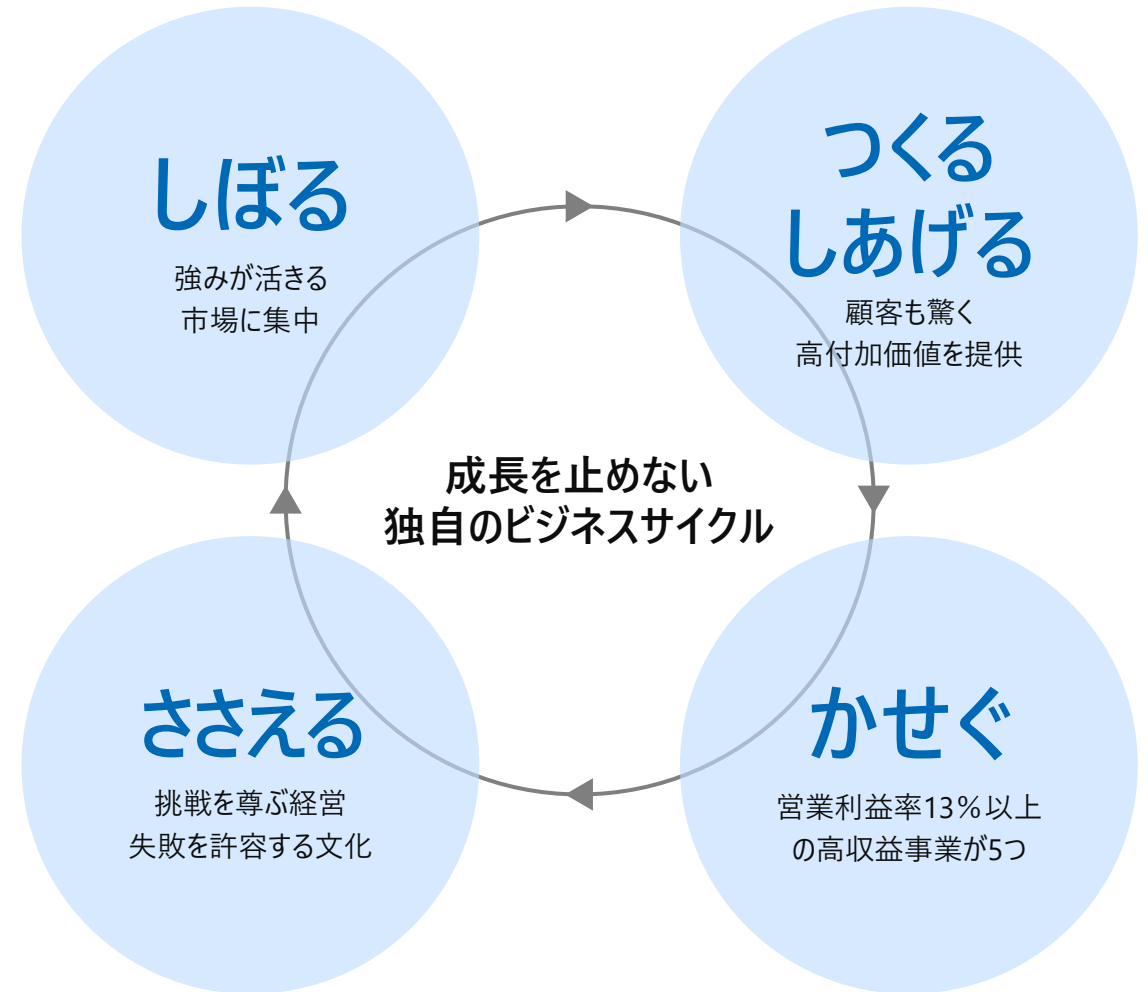


会社概要 — 地域別構成、生産拠点地域別構成



グローバルニッチNo.1 実現のビジネスサイクル

私たちは世界で唯一の価値を提供し続け、顧客や社会から信頼される企業を目指しています。規模より価値を重視し、強みを活かせる分野に集中して付加価値を持続的に提供することで、収益性と社会価値の両立を実現します。挑戦を尊び、失敗から学ぶ文化を基盤に、グローバルニッチNo.1を追求していきます。



会社概要 – オプテックスグループの強み

グローバルニッチ市場でトップシェアを誇る製品群を展開



屋外用侵入検知センサー

(SS事業 防犯関連)

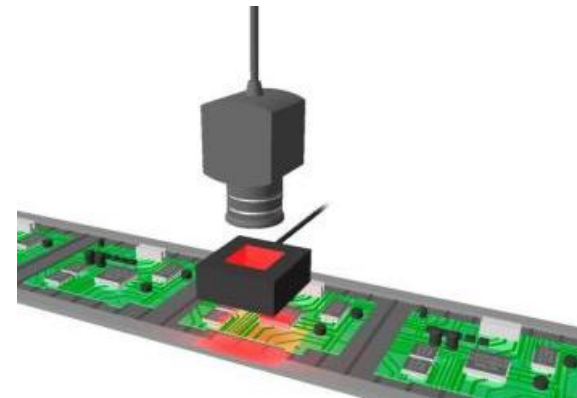
グローバルシェア
40%



自動ドアセンサー

(SS事業 自動ドア関連)

グローバルシェア
30%



検査用LED照明

(IA事業 検査用照明関連)

グローバルシェア
30%

事業概要 – SS事業 防犯関連

屋外用侵入検知センサー グローバルシェア40%



レジデンシャル（住宅）向け



高級住宅（海外）

コマーシャル（事業所・倉庫等）向け



事業所

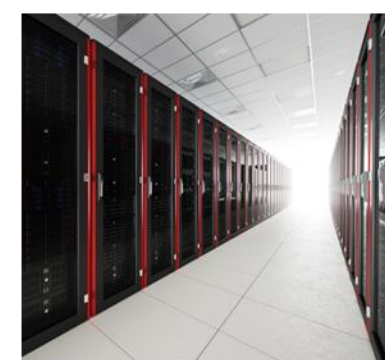


倉庫

ハイセキュリティ（大型重要施設）向け



発電所・石油インフラ施設



データセンター

事業概要 – SS事業 自動ドア関連

自動ドアセンサー グローバルシェア30%

1980年 世界初 遠赤外線式自動ドア用センサーを開発



マットスイッチ（床）



自動ドア用センサー1号機



空調エネルギーロスを減らし、CO2削減に貢献



無駄開きを抑止し、冷気や暖気の漏れを防ぐ

ショッピングセンター



コンビニエンスストア



病院



工場、倉庫用シャッター

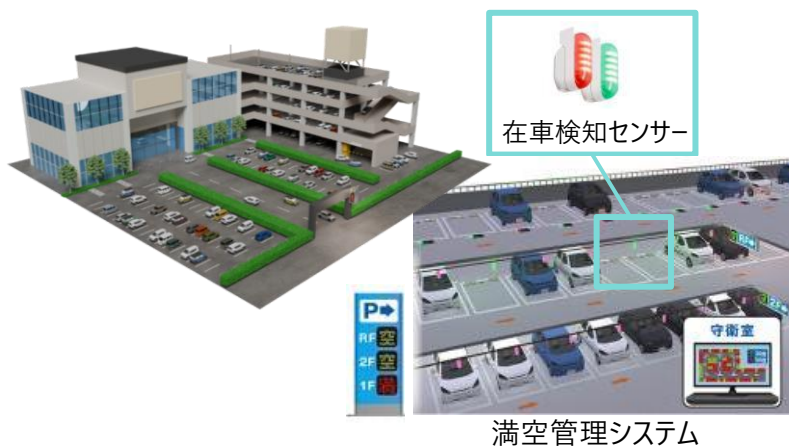


事業概要 – SS事業 社会・環境関連

車両検知センサー：環境負荷の少ない車両検知センサーで、駐車場や交通インフラの快適性を実現

■ 駐車場の管理システム

商業施設などの駐車場向け スマートパーキングソリューション



■ ゲート開閉

住宅、事業所等向け ゲート自動開閉用途



商業施設、公共施設



コインパーキング



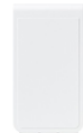
水質計測センサー：水質測定からデータ管理まで自動化し、水質監視と予防保全の効率化を実現



センサー



変換器



ゲートウェイ



データマネージメント
サービス

浄水場、工場



養殖場



事業概要 – IA事業 FA関連

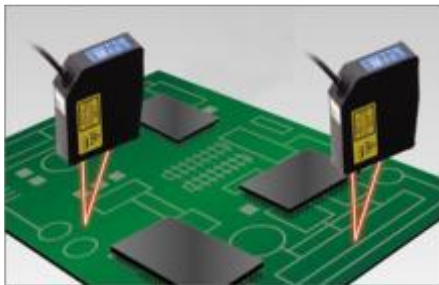
工場の生産工程で自動化、省人化に役立つセンサーを提供

半導体、電気・電子部品業界向け

変位センサー



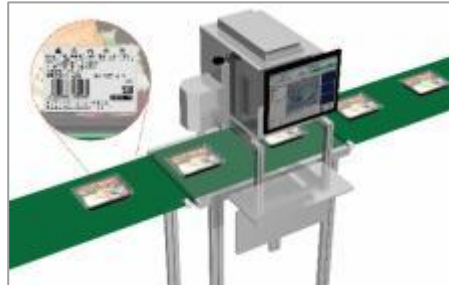
スマートフォンのフレームの高さ測定



基板の傾き、ソリ測定

三品業界向け（食品、医薬品、化粧品）

画像センサー



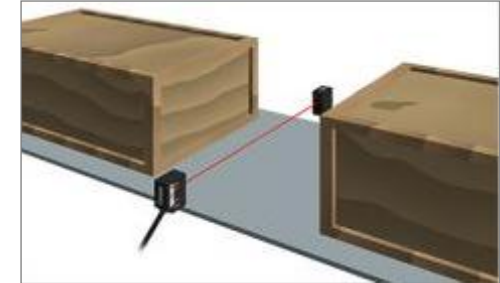
弁当・惣菜の食品表示ラベル検査



牛乳の賞味期限印字検査

物流業界向け

光電センサー



段ボールや木箱の通過検出



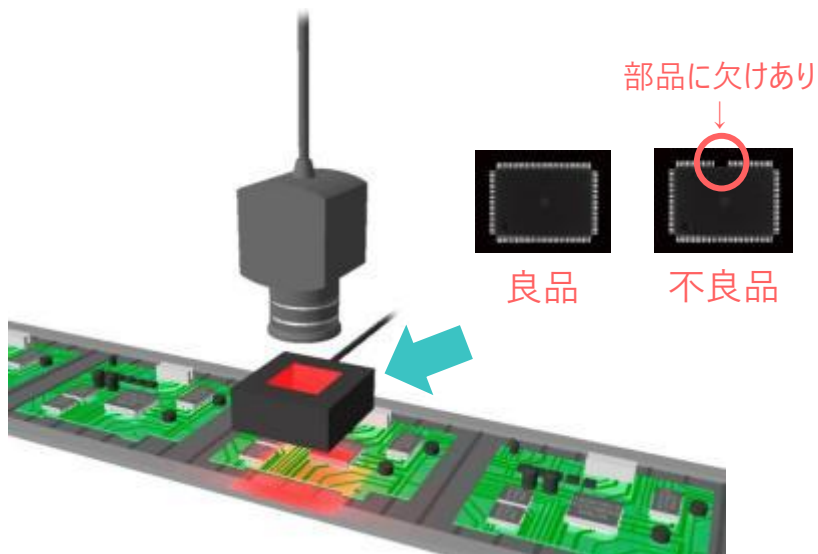
自動倉庫ではみ出し検出

事業概要 – IA事業 検査用照明関連

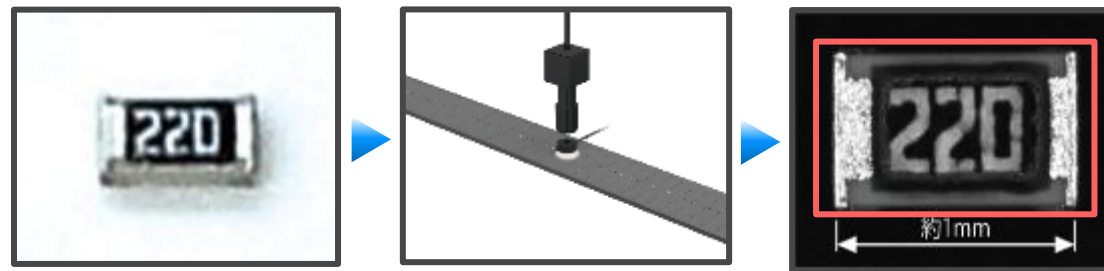
検査用LED照明 グローバルシェア30%

検査用照明

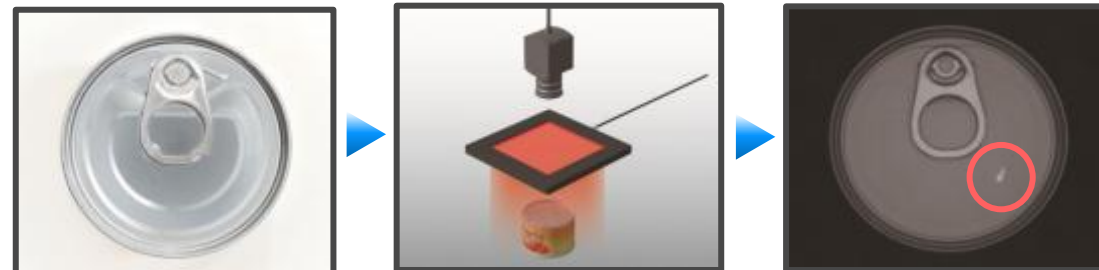
工場で何かを生産する場合は、各工程ごとに必ず「検査」のプロセスがあり、検査対象物を照明・電源、レンズ・カメラを使って撮像し、画像を基に「良品 or 不良品」の判定を行います。



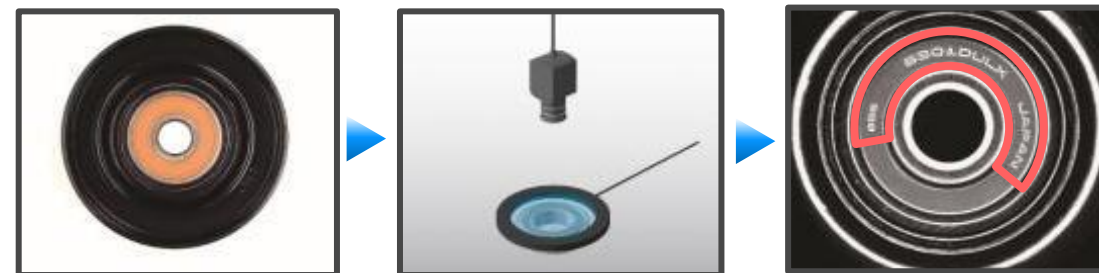
プリント基板の実装部品欠陥検査



小型チップ部品の文字・形状観察撮像



缶詰表面の汚れ撮像



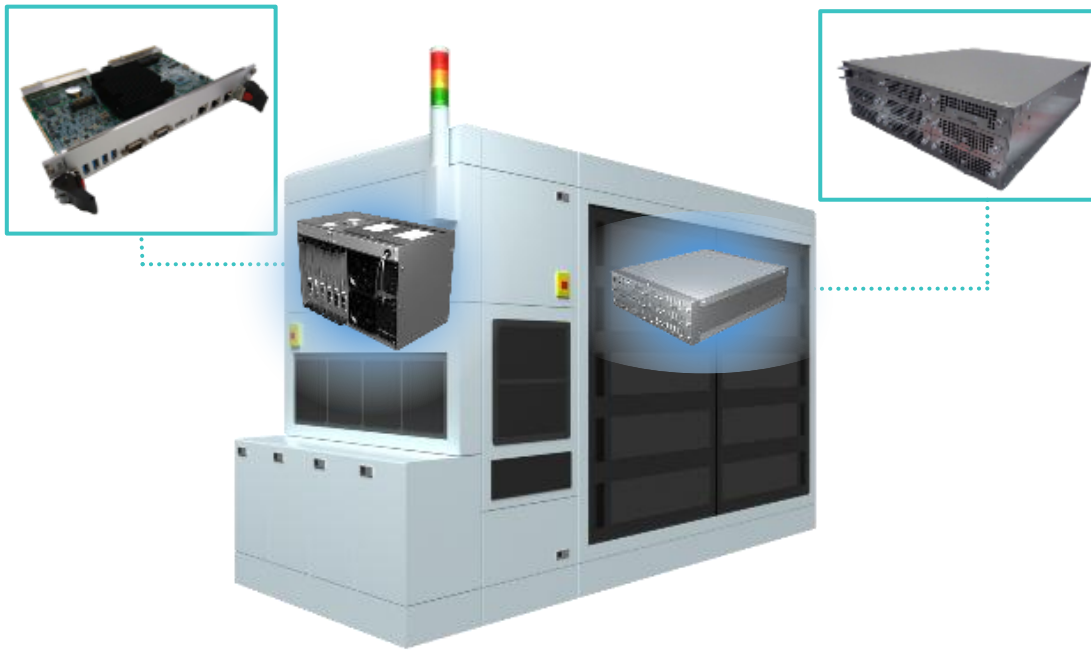
ベアリングの刻印文字撮像

事業概要 –IA事業 産業用PC関連

半導体製造装置向けの組込ボードや空港向けの追尾用カメラを提供

産業用組込みボード

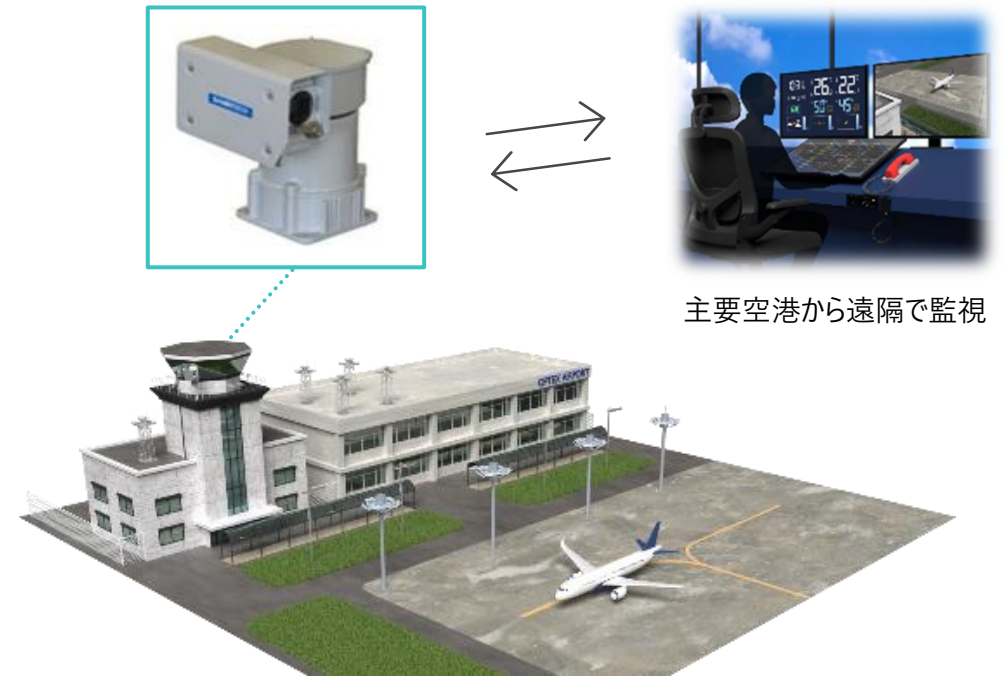
半導体製造装置や医療・通信などの生産性向上に
貢献するコンピュータ・プラットフォームを提供



半導体製造装置のイメージ

生産・社会インフラシステム

自動追尾用カメラ等のシステムを提供し、
空港等、社会インフラの課題解決に貢献



主要空港から遠隔で監視

地方空港のイメージ

事業概要 – IA事業 自動化装置関連

自動化装置や画像処理検査・計測装置を提供

自動化装置

高度なメカトロ技術を保有

- ✓ 高速・高精度充填技術
- ✓ 高速搬送技術 等



二次電池製造装置等の自動化装置の開発

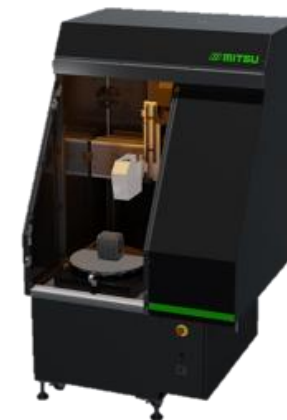
画像処理検査／計測装置

モノを動かす
「Motion技術」

×

モノを見る
「Vision技術」

お客様の課題に合わせてカメラ、LED照明、各種測定機等を組み合わせた画像処理検査システムを構築



サステナビリティ

当社はサステナビリティ基本方針の元、ESG課題に積極的に対応し企業価値の向上に努めています。
詳細は「サステナビリティ・ハイライト」をご覧ください（[レポートはこちら](#)）。

Environmental (環境)

環境課題への取り組み

【TCFD提言への賛同】

「2030年までに2019年度比CO2排出量を30%以上削減する」という中長期目標を設定し、気候変動対応プロジェクトを中心にTCFDの枠組みに沿った対応を推進

【製品・ソリューションでCO2削減に貢献】

環境配慮型の製品・ソリューションの普及拡大に取り組む

自動ドア用センサー



無駄な開閉を防止することにより空調効率を改善

画像検査用LED照明



明るさを自動管理するフィードバック制御により省エネを実現



Social (社会)

社会課題への取り組み

「自己実現No.1」の会社を目指し、社員の成長のサポートや能力発揮のための人材育成と職場環境の整備を推進。



健康意識の向上や生活習慣の改善、メンタルヘルス対策の強化の取り組みにより、優良な健康経営に取り組む企業として、オプテックス(株)、オプテックス・エフイー(株)の2社が「健康経営優良法人」に認定。

Governance (ガバナンス)

企業統治への取り組み

当社の取締役会は、企業経営・経営管理、技術開発、生産、営業販売、海外での勤務経験、会計の専門性等をそれぞれ有効に活用する取締役5名（男性4名、女性1名）と、豊富な監査経験、税理士、公認会計士、弁護士の資格を有する等、高い見識と知見を有する監査等委員である取締役3名（男性2名、女性1名）で構成されています。
(2026年3月27日現在)



取締役会での活発な議論を通じた意思決定で戦略の質を高め、更なる企業価値の向上を実現。

<https://www.optexgroup.co.jp/>